

当社のコーポレート・ガバナンスの状況は以下のとおりです。

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方及び資本構成、企業属性その他の基本情報

1. 基本的な考え方

当社は、「最先端の技術と確かなサービスで、夢のある社会の発展に貢献します」という基本理念のもと、グローバル競争に勝ちぬき、持続的成長と中長期的な企業価値の向上を実現するために、それを支えるコーポレート・ガバナンスの充実に取り組むことが重要であると考えております。当社のコーポレート・ガバナンス強化のため、当社がもつワールドワイドのリソースを最大限活用する仕組みを構築し、経営基盤及び技術基盤を強化し、グローバル水準の収益力を確立できるよう、体制を整備します。

加えて、当社が夢と活力に満ちた会社であり続けることが、社員の高いモチベーションを支え、当社の持続的な成長を支える基盤になるものと考えています。

【コーポレートガバナンス・コードの各原則を実施しない理由】更新

すべての原則について、2021年6月に改訂されたコーポレートガバナンス・コードに基づき記載しております。(プライム市場向けの内容を除く)

< 補充原則4-8-1 独立社外者のみを構成員とする会合を定期的に開催するなど、独立した客観的な立場に基づく情報交換・認識共有を図るべきである >

当社は、独立社外者のみを構成員とする会合を、設定しておりません。しかしながら、取締役会実効性評価に関する討議の一環で、社外取締役及び社外監査役を中心とした意見交換、討議を実施しております。なお、本会合における討議の実効性を高める目的で、非業務執行の社内取締役1名も加わっております。今後も、このような意見交換、討議を継続的に開催していく予定です。

加えて、当社は社外取締役及び監査役との情報共有のため、とくに重要な事項については、当社執行部との間で事前に意見交換をおこなう場を設けるなど、独立社外者に対する十分な情報提供及び意見交換に努めております。これにより、独立社外者は積極的に取締役会の議論に参加し、活発な意見交換を通じて、その責務を果たしていると考えております。

< 補充原則4-8-2 筆頭独立社外取締役を決定することなどにより、経営陣との連絡・調整や監査役または監査役会との連携に係る体制整備を図るべきである >

当社は、情報共有のため、とくに重要な事項については、独立社外取締役及び監査役と当社執行部との間で事前に意見交換をおこなう場を設けるなど、独立社外者に対する十分な情報提供及び意見交換に努めております。なお、当社は筆頭独立社外取締役を設けておりませんが、独立社外取締役と経営陣との連絡・調整や監査役会との連携に問題はないと考えております。

< 補充原則4-10-1 独立社外取締役を主要な構成員とする独立した指名委員会・報酬委員会を設置することにより、指名や報酬などの特に重要な事項に関する検討に当たり、ジェンダー等の多様性やスキルの観点を含め、これらの委員会の適切な関与・助言を得るべきである >

2022年3月期の指名委員会は、社内取締役3名、独立社外取締役1名の計4名で構成し、委員長は独立社外取締役が務めております。また、当社では、指名委員にはCEOは加わらないことを指名委員会規程上、規定しており、同委員会の運営にはCEOの権限が及ばず、独立性・公正性の高い候補者選定を実現することが重要と考えております。加えて、運営上、指名委員会からの候補者提案にあたっては、独立社外取締役に事前に相談するなど、独立社外取締役の適切な関与・助言を得ております。

一方、2022年3月期の報酬委員会は、社内取締役2名、独立社外取締役2名の計4名で構成し、半数を独立社外取締役が占めております。また、委員長は独立社外取締役が務めております。

【コーポレートガバナンス・コードの各原則に基づく開示】更新

すべての原則について、2021年6月に改訂されたコーポレートガバナンス・コードに基づき記載しております。(プライム市場向けの内容を除く)

当社は、前記1.「基本的な考え方」に記載した各事項の実現に資するガバナンスの枠組みを示すため、「東京エレクトロン コーポレートガバナンス・ガイドライン」を策定しております。

詳細は、添付資料2または当社ウェブサイトをご参照ください。

https://www.tel.co.jp/about/cms-file/cg_01_guideline.pdf

なお、コーポレートガバナンス・コードにおいて開示すべきとされる各事項の実施状況について、巻末に添付の「対応状況表」にまとめました。対応状況表は、添付資料1をご参照ください。

2. 資本構成

| | |
|-----------|-------|
| 外国人株式保有比率 | 30%以上 |
|-----------|-------|

【大株主の状況】 更新

| 氏名又は名称 | 所有株式数(株) | 割合(%) |
|--|------------|-------|
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 37,353,900 | 23.89 |
| 株式会社日本カストディ銀行(信託口) | 13,257,100 | 8.48 |
| ジェービー モルガン チェース バンク 385632 | 7,421,188 | 4.74 |
| 株式会社TBSホールディングス | 5,991,383 | 3.83 |
| 株式会社日本カストディ銀行(証券投資信託口) | 2,876,900 | 1.84 |
| 株式会社日本カストディ銀行(信託口7) | 2,729,000 | 1.74 |
| ステート ストリート バンク ウェスト クライアント トリーティー 505234 | 2,580,654 | 1.65 |
| 株式会社日本カストディ銀行(信託口4) | 2,325,500 | 1.48 |
| SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT | 2,209,200 | 1.41 |
| ジェービー モルガン チェース バンク 385781 | 1,862,798 | 1.19 |

| | |
|-----------------|----|
| 支配株主(親会社を除く)の有無 | |
| 親会社の有無 | なし |

補足説明 更新

上記は、2021年9月30日現在の状況を記載しております。上記のほか当社所有の自己株式902,336株があります。なお、自己株式には、役員報酬BIP信託口及び株式付与ESOP信託口が所有する当社株式612,808株を含めておりません。所有株式数の割合は、自己株式を控除して算出しております。

以下の大量保有報告書(変更報告書を含む)が公衆の縦覧に供されておりますが、当社として2021年9月30日現在の実質保有状況の確認ができない部分については、上記表に含めておりません。

| 大量保有者 | 提出書類 | 提出日 | 保有株式数(千株) |
|----------------------------------|-------|-------------|----------------------|
| 野村證券株式会社 他1社 | 変更報告書 | 2020年 7月21日 | 2020年 7月15日現在 15,400 |
| 三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社 他1社 | 変更報告書 | 2020年12月22日 | 2020年12月15日現在 14,502 |
| 株式会社三菱UFJ銀行 他4社 | 変更報告書 | 2021年 6月 7日 | 2021年 5月31日現在 11,491 |
| キャピタル・リサーチ・アンド・マネージメント・カンパニー 他2社 | 変更報告書 | 2020年 5月12日 | 2020年 4月30日現在 8,632 |
| アセットマネジメントOne株式会社 他1社 | 変更報告書 | 2020年12月22日 | 2020年12月15日現在 6,491 |

3. 企業属性

| | |
|---------------------|------------|
| 上場取引所及び市場区分 | 東京 第一部 |
| 決算期 | 3月 |
| 業種 | 電気機器 |
| 直前事業年度末における(連結)従業員数 | 1000人以上 |
| 直前事業年度における(連結)売上高 | 1兆円以上 |
| 直前事業年度末における連結子会社数 | 10社以上50社未満 |

4. 支配株主との取引等を行う際における少数株主の保護の方策に関する指針

5. その他コーポレート・ガバナンスに重要な影響を与える特別な事情
特にございません。

経営上の意思決定、執行及び監督に係る経営管理組織その他のコーポレート・ガバナンス体制の状況

1. 機関構成・組織運営等に係る事項

| | |
|------|---------|
| 組織形態 | 監査役設置会社 |
|------|---------|

【取締役関係】

| | |
|------------------------|--------------------|
| 定款上の取締役の員数 | 18名 |
| 定款上の取締役の任期 | 1年 |
| 取締役会の議長 | 会長(社長を兼任している場合を除く) |
| 取締役の人数 | 12名 |
| 社外取締役の選任状況 | 選任している |
| 社外取締役の人数 | 4名 |
| 社外取締役のうち独立役員に指定されている人数 | 4名 |

会社との関係(1)

| 氏名 | 属性 | 会社との関係() | | | | | | | | | | | | |
|--------------------|----------|-----------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--|--|
| | | a | b | c | d | e | f | g | h | i | j | k | | |
| チャールズ・デイトマース・レイク二世 | 他の会社の出身者 | | | | | | | | | | | | | |
| 佐々木 道夫 | 他の会社の出身者 | | | | | | | | | | | | | |
| 江田 麻季子 | 他の会社の出身者 | | | | | | | | | | | | | |
| 市川 佐知子 | 弁護士 | | | | | | | | | | | | | |

会社との関係についての選択項目

本人が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「 」、 「過去」に該当している場合は「 」

近親者が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「 」、 「過去」に該当している場合は「 」

- a 上場会社又はその子会社の業務執行者
- b 上場会社の親会社の業務執行者又は非業務執行取締役
- c 上場会社の兄弟会社の業務執行者
- d 上場会社を主要な取引先とする者又はその業務執行者
- e 上場会社の主要な取引先又はその業務執行者
- f 上場会社から役員報酬以外に多額の金銭その他の財産を得ているコンサルタント、会計専門家、法律専門家
- g 上場会社の主要株主(当該主要株主が法人である場合には、当該法人の業務執行者)
- h 上場会社の取引先(d、e及びiのいずれにも該当しないもの)の業務執行者(本人のみ)
- i 社外役員の相互就任の関係にある先の業務執行者(本人のみ)
- j 上場会社が寄付を行っている先の業務執行者(本人のみ)
- k その他

| 氏名 | 独立役員 | 適合項目に関する補足説明 | 選任の理由 |
|--------------------|------|---|--|
| チャールズ・デイトマース・レイク二世 | | | <p>チャールズ・デイトマース・レイク二世氏は、米国政府の要職や米国の法律事務所勤務等を経て、アフラック生命保険㈱代表取締役会長及びアフラック・インターナショナル・インコーポレーテッド取締役社長等を歴任しており、日本と米国の両国にまたがる企業の経営者としての豊富な経験及び見識を有しております。これらの経験及び見識を活かし、経営の監督に加え、中長期的な企業価値向上の観点から当社の経営全般に対して意見・助言をいただくことが期待できることから、社外取締役として選任しております。</p> <p>同氏は、(株)東京証券取引所の定める独立性基準を踏まえて策定した当社の「社外役員の独立性判断基準」を満たしておりますので、独立役員として指定しております。</p> |
| 佐々木 道夫 | | | <p>佐々木道夫氏は、現在、(株)SHIFTの取締役副社長を務めております。同氏は、(株)キーエンスの代表取締役社長等を歴任し、企業価値の飛躍的な向上や高い利益率を実現するなど、長年にわたり同社のグローバルマネジメントに携わった経験を有しております。これら企業経営者としての豊富な経験及び見識を活かし、経営の監督に加え、中長期的な企業価値向上の観点から当社の経営全般に対して意見・助言をいただくことが期待できることから、社外取締役として選任しております。</p> <p>同氏は、(株)東京証券取引所の定める独立性基準を踏まえて策定した当社の「社外役員の独立性判断基準」を満たしておりますので、独立役員として指定しております。</p> |
| 江田 麻季子 | | <p>江田麻季子氏は、当社の主要な取引先である米国大手半導体メーカーIntel Corporationに勤務していた経験を有しております。しかしながら、同氏は2018年3月に同社を退職しているため、(株)東京証券取引所の定める独立性基準を踏まえて策定した当社の「社外役員の独立性判断基準」を満たしており、当社社外取締役として一般株主との間に利益相反は生じないと判断しております。</p> | <p>江田麻季子氏は、米国大手半導体メーカーIntel Corporationにおいて、アジア太平洋地域のマーケティングに携わり、半導体の事業の将来やニーズの拡がりについて深い知見を有するとともに、同社日本法人の代表取締役社長を務め、企業経営者としての豊富な経験及び幅広い見識を有しております。また、世界経済フォーラム日本代表を務め、様々な分野のリーダーと幅広く意見交換をおこない、国際社会が直面する諸課題の解決に取り組んでおります。これら半導体産業にかかる経験、グローバルで多面的な視点を活かし、経営の監督に加え、中長期的な企業価値向上の観点から当社の経営全般に対して意見・助言をいただくことが期待できることから、社外取締役として選任しております。</p> <p>同氏は、(株)東京証券取引所の定める独立性基準を踏まえて策定した当社の「社外役員の独立性判断基準」を満たしておりますので、独立役員として指定しております。</p> |

| | | |
|--------|--|--|
| 市川 佐知子 | | <p>市川佐知子氏は、田辺総合法律事務所のパートナーを務め、企業法務を中心に弁護士として豊富な経験及び専門知識を有するとともに、米国ニューヨーク州弁護士資格や米国公認会計士資格を保有するなど、グローバルかつ高度な専門性も兼ね備えております。これらの経験や、コーポレートガバナンス、リスクマネジメント、コンプライアンス等の見識を活かし、経営の監督に加え、中長期的な企業価値向上の観点から当社の経営全般に対して意見・助言をいただくことが期待できることから、社外取締役として選任しております。</p> <p>同氏は、(株)東京証券取引所の定める独立性基準を踏まえて策定した当社の「社外役員の独立性判断基準」を満たしておりますので、独立役員として指定しております。</p> |
|--------|--|--|

| | |
|----------------------------|----|
| 指名委員会又は報酬委員会に相当する任意の委員会の有無 | あり |
|----------------------------|----|

任意の委員会の設置状況、委員構成、委員長(議長)の属性

| | 委員会の名称 | 全委員(名) | 常勤委員(名) | 社内取締役(名) | 社外取締役(名) | 社外有識者(名) | その他(名) | 委員長(議長) |
|------------------|--------|--------|---------|----------|----------|----------|--------|---------|
| 指名委員会に相当する任意の委員会 | 指名委員会 | 4 | 0 | 3 | 1 | 0 | 0 | 社外取締役 |
| 報酬委員会に相当する任意の委員会 | 報酬委員会 | 4 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 社外取締役 |

補足説明

当社では、取締役会内に指名委員会と報酬委員会を設置し、それぞれCEO及び取締役候補者の指名、役員報酬制度についての積極的な議論をおこなっております。

(指名委員会)

当社は取締役会の内部委員会として、指名委員会を設置しております。指名委員会の役割は、株主総会で選任される取締役候補者及び取締役会で選任されるCEO候補者を指名し取締役会へ提案することであり、経営の公正性、実効性確保の観点から、CEOは委員には加わず社外取締役もしくは社外監査役を含む3名以上の委員で構成しております。また、後継候補者育成プランに関連する活動に関しても、モニタリングと助言をおこなっております。

指名委員会は、年10回(2021年3月期実施)の会議を全ての委員の出席のもと開催し、CEO及び取締役候補者の提案に加え、後継候補者群の見直しや拡充、育成計画に関する意見交換などの活動をおこないました。

なお、2022年3月期の委員は、佐々木道夫取締役(社外)、長久保達也取締役、春原清取締役、布川好一取締役の4名となります。委員長は各委員の互選により、佐々木道夫取締役が務めております。

(報酬委員会)

当社は取締役会の内部委員会として、報酬委員会を設置しております。報酬委員会の役割は、外部専門家からのアドバイスを活用し、国内外の同業企業等との報酬水準等の分析比較をおこなった上で、取締役の報酬方針、グローバルに競争力があり当社グループに最も適切な報酬制度及び代表取締役の個別報酬額等を取締役にに対し提案することです。経営の透明性・公正性、報酬の妥当性を確保するため、社外取締役を含む3名以上の委員(代表取締役を除く)で構成しております。

報酬委員会は、年7回(2021年3月期実施)の会議を全ての委員の出席のもと開催し、ESGの報酬への反映やクローバックポリシー、株式保有ガイドラインを含む報酬制度、決定プロセス、代表取締役の個別年次業績連動報酬額に反映される個人評価の実施など、当社の報酬の基本方針に則り数多くの議論を重ねました。これらに関する報酬委員会並びに取締役会の活動内容は以下の通りです。開催したすべての報酬委員会には外部専門家が同席しました。

- ・報酬制度及びプロセスに関する議論
- ・クローバックポリシー及び株式保有ガイドラインに関する議論
- ・中期業績連動報酬2020年設定プランの決定
- ・代表取締役のミッション並びに個人評価の決定
- ・代表取締役の基本報酬、年次業績連動報酬額の決定
- ・業務執行取締役の報酬決定プロセスの決定
- ・役員報酬制度に関する開示並びに株主総会議案の決定

なお、2022年3月期の委員は、チャールズ・デイトマース・レイク二世取締役(社外)、長久保達也取締役、三田野好伸取締役、江田麻季子取締役(社外)の4名となります。委員長は各委員の互選により、チャールズ・デイトマース・レイク二世取締役が務めております。

両委員会の存在が、当社経営の公正性等を担保し、当社の健全な「攻めのガバナンス」を支えています。

【監査役関係】

| | |
|------------|--------|
| 監査役会の設置の有無 | 設置している |
| 定款上の監査役員数 | 5名 |
| 監査役員数 | 5名 |

監査役、会計監査人、内部監査部門の連携状況 更新

添付資料2「東京エレクトロン コーポレートガバナンス・ガイドライン」第 部 ガバナンスの体制 > 4. 監査役会 > (3) 監査役と執行部、内部監査部門、会計監査人との連携 及び 第 部 ガバナンスの体制 > 5. 内部統制及びリスク管理(内部統制基本方針) をご参照ください。

| | |
|------------------------|--------|
| 社外監査役の選任状況 | 選任している |
| 社外監査役員数 | 3名 |
| 社外監査役のうち独立役員に指定されている人数 | 3名 |

会社との関係(1)

| 氏名 | 属性 | 会社との関係() | | | | | | | | | | | | |
|-------|----------|-----------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | a | b | c | d | e | f | g | h | i | j | k | l | m |
| 和貝 享介 | 公認会計士 | | | | | | | | | | | | | |
| 濱 正孝 | 他の会社の出身者 | | | | | | | | | | | | | |
| 三浦 亮太 | 弁護士 | | | | | | | | | | | | | |

会社との関係についての選択項目

本人が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「 」、「過去」に該当している場合は「 ）」

近親者が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「 」、「過去」に該当している場合は「 ）」

- a 上場会社又はその子会社の業務執行者
- b 上場会社又はその子会社の非業務執行取締役又は会計参与
- c 上場会社の親会社の業務執行者又は非業務執行取締役
- d 上場会社の親会社の監査役
- e 上場会社の兄弟会社の業務執行者
- f 上場会社を主要な取引先とする者又はその業務執行者
- g 上場会社の主要な取引先又はその業務執行者
- h 上場会社から役員報酬以外に多額の金銭その他の財産を得ているコンサルタント、会計専門家、法律専門家
- i 上場会社の主要株主(当該主要株主が法人である場合には、当該法人の業務執行者)
- j 上場会社の取引先(f、g及びhのいずれにも該当しないもの)の業務執行者(本人のみ)
- k 社外役員の相互就任の関係にある先の業務執行者(本人のみ)
- l 上場会社が寄付を行っている先の業務執行者(本人のみ)
- m その他

| 氏名 | 独立役員 | 適合項目に関する補足説明 | 選任の理由 |
|-------|------|--------------|--|
| 和貝 享介 | | | 和貝享介氏は、公認会計士として監査法人での長年の経験があり、豊富な財務及び会計に関する専門知識と監査等の見識を当社の監査に反映いただいております。これまで当社取締役会や監査役会において、情報セキュリティ等に関して意見・助言をいただくなど、当社の監査に貢献していただいております。引き続きこれらの経験及び見識を活かし、監査の妥当性を客観的に確保する観点から、社外監査役として選任しております。 同氏は、(株)東京証券取引所の定める独立性基準を踏まえて策定した当社の「社外役員の独立性判断基準」を満たしておりますので、独立役員として指定しております。 |
| 瀧 正孝 | | | 瀧正孝氏は、金融業界における長年の幅広い経験を通じて、企業経営に関する豊富な経験を有するとともに、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。これらの経験及び見識を活かし、監査の妥当性を客観的に確保する観点から、社外監査役候補者として選任しております。 同氏は、(株)東京証券取引所の定める独立性基準を踏まえて策定した当社の「社外役員の独立性判断基準」を満たしておりますので、独立役員として指定しております。 |
| 三浦 亮太 | | | 三浦亮太氏は、大手法律事務所でのパートナーを経た後、現在は弁護士法人三浦法律事務所のパートナーを務めるなど、企業法務分野を中心に弁護士として豊富な経験及び専門知識を有しております。これらの経験及び専門知識を活かし、監査の妥当性を客観的に確保する観点から、社外監査役として選任しております。 同氏は、(株)東京証券取引所の定める独立性基準を踏まえて策定した当社の「社外役員の独立性判断基準」を満たしておりますので、独立役員として指定しております。 |

【独立役員関係】

| | |
|--|----|
| 独立役員の数 更新 | 7名 |
|--|----|

その他独立役員に関する事項

当社は、(株)東京証券取引所の定める独立性基準を踏まえて策定した当社の「社外役員の独立性判断基準」に基づき、社外取締役及び社外監査役の独立性を判断しております。

「社外役員の独立性判断基準」は、添付資料2「東京エレクトロン コーポレートガバナンス・ガイドライン」>別紙2または当社ウェブサイトをご参照ください。

https://www.tel.co.jp/about/cms-file/cg_02.pdf

また、当社は、社外役員にかかる取引または寄付が次の軽微基準の範囲内である場合は、属性情報の該当状況についての記載及び概要の説明を省略しています。

(取引)

- 当社及び当社子会社からの支払い額が、直近事業年度においてその支払先の年間連結売上高(これに準ずるものを含む)の1%または5千万円のいずれか高い方の額未満

- 近親者については、当社からの支払い額が、直近事業年度においてその支払先の年間連結売上高(これに準ずるものを含む)の1%または5千万円のいずれか高い方の額未満

- 当社への支払額が、直近事業年度において当社の年間連結売上高の1%相当額未満

(寄付)

- 当社から受けている寄付の金額が、直近事業年度において1千万円未満

【インセンティブ関係】

取締役へのインセンティブ付与に関する
施策の実施状況

業績連動報酬制度の導入、ストックオプション制度の導入、その他

該当項目に関する補足説明 **更新**

1. 報酬の基本方針

当社グループの役員報酬の基本方針として重視する点は次のとおりです。
グローバルに優秀な経営人材を確保できるための競争力のある水準と制度
短期的業績及び持続的な成長に向けた中長期の企業価値向上との高い連動性
報酬決定プロセスの透明性・公正性、報酬の妥当性の確保

2. 報酬構成

取締役のうち、社内取締役の報酬は、「固定基本報酬」「年次業績連動報酬」「中期業績連動報酬」により構成します。
社外取締役ににつきましては、経営の監督に加えて、中長期的な企業価値向上の視点から経営に対して助言をおこなうという役割を担っておりま
す。この期待役割に対しより整合した報酬体系とすることを目的に、非業績連動の株式報酬制度を導入しており、社外取締役の報酬は「固定基本
報酬」「非業績連動報酬(株式報酬)」で構成されます。
監査役の報酬については、経営の監査・監督が主たる役割であることを踏まえ、「固定基本報酬」のみとしております。
なお、固定報酬的色彩の強い取締役・監査役に対する役員退職慰労金制度につきましては、2006年3月期以降を廃止しております。

3. 構成・固定基本報酬に対する支給割合に関する方針

添付資料2「東京エレクトロン コーポレートガバナンス・ガイドライン」第 部 ガバナンスの体制 > 3. 取締役会 > (6) 取締役、CEOの報酬 をご参
照ください。

ストックオプションの付与対象者

社内取締役、従業員、子会社の取締役、子会社の従業員

該当項目に関する補足説明

付与対象者は、当社取締役(社外取締役を除く)、当社執行役員及び幹部社員、子会社の取締役、執行役員及び幹部社員であります。
当該付与対象者に対して、年次賞与である業績連動報酬の一部を株式報酬として支給することにより、業績向上による株価向上のインセンティブ
をもたせるとともに、株価変動によるリスクを株主各位と共有することを目的としております。

【取締役報酬関係】

(個別の取締役報酬の)開示状況

一部のものだけ個別開示

該当項目に関する補足説明 更新

ステークホルダーに対する透明性が重要であるとの視点に立ち、1999年より事業報告(旧 営業報告書)において代表取締役の個別報酬、取締役及び監査役の報酬総額を開示しております。

2021年3月期の報酬につきましては、有価証券報告書において以下のとおり、取締役(社外取締役を除く)、社外取締役、監査役(社外監査役を除く)、社外監査役の区分に応じて、各々の報酬総額等を開示しております。

| 役員区分 | 対象となる 役員の員数 (名) | 報酬等の総額 (百万円) | 報酬等の種類別の総額(百万円) | | | | |
|-------------------|-----------------------|-----------------|-----------------|----------|------------------------|--------------------------|--|
| | | | 固定基本 報酬 | 年次業績連動報酬 | | 中期業績 連動報酬 | 非業績 連動報酬 |
| | | | | 現金賞与 | 株式報酬型 ストック オプション | パフォーマンス シェア (株式報酬) | リストラク テッド・ ストック・ ユニット (株式報酬) |
| 取締役 (社外取締役を除く) | 8 | 3,539 | 479 | 1,515 | 1,515 | 30 | — |
| 社外取締役 | 3 | 77 | 47 | — | — | — | 30 |
| 取締役合計 | 11 | 3,617 | 527 | 1,515 | 1,515 | 30 | 30 |
| 監査役 (社外監査役を除く) | 2 | 86 | 86 | — | — | — | — |
| 社外監査役 | 5 | 44 | 44 | — | — | — | — |
| 監査役合計 | 7 | 130 | 130 | — | — | — | — |

また、報酬総額が1億円以上である役員につき、以下のとおり個別の報酬開示をおこなっております。

| 氏名 | 連結報酬等 の総額 (百万円) | 役員区分 | 会社区分 | 連結報酬等の種類別の総額(百万円) | | | |
|--------|-----------------------|------|------|-------------------|----------|------------------------|--------------------------|
| | | | | 固定基本報酬 | 年次業績連動報酬 | | 中期業績 連動報酬 |
| | | | | | 現金賞与 | 株式報酬型 ストック オプション | パフォーマンス シェア (株式報酬) |
| 常石 哲男 | 375 | 取締役 | 提出会社 | 69 | 150 | 150 | 5 |
| 河合 利樹 | 902 | 取締役 | 提出会社 | 102 | 394 | 394 | 11 |
| 佐々木 貞夫 | 478 | 取締役 | 提出会社 | 64 | 206 | 206 | 2 |
| 布川 好一 | 384 | 取締役 | 提出会社 | 52 | 165 | 165 | 2 |
| 長久保 達也 | 348 | 取締役 | 提出会社 | 46 | 150 | 150 | 2 |
| 春原 清 | 348 | 取締役 | 提出会社 | 46 | 150 | 150 | 2 |
| 池田 世崇 | 350 | 取締役 | 提出会社 | 48 | 150 | 150 | 2 |
| 三田野 好伸 | 350 | 取締役 | 提出会社 | 48 | 150 | 150 | 2 |

報酬の額又はその算定方法の決定方針
の有無 更新

あり

報酬の額又はその算定方法の決定方針の開示内容

添付資料2「東京エレクトロン コーポレートガバナンス・ガイドライン」第 部 ガバナンスの体制 > 3. 取締役会 > (6) 取締役、CEOの報酬 をご参照ください。

【社外取締役(社外監査役)のサポート体制】 更新

添付資料2「東京エレクトロン コーポレートガバナンス・ガイドライン」第 部 ガバナンスの体制 > 3. 取締役会 > (7) 取締役会の議論の活性化に向けた取り組み等をご参照ください。

【代表取締役社長等を退任した者の状況】

元代表取締役社長等である相談役・顧問等の氏名等

| 氏名 | 役職・地位 | 業務内容 | 勤務形態・条件 (常勤・非常勤、報酬有無等) | 社長等退任日 | 任期 |
|-------|--------|--|---------------------------|------------|----|
| 久保 徳雄 | ファウンダー | 当社の創業者に対し、その功績に敬意を表し「ファウンダー」の称号を付与したもの | 業務、勤務及び報酬なし | 1980/12/23 | - |
| 小高 敏夫 | ファウンダー | 当社の創業者に対し、その功績に敬意を表し「ファウンダー」の称号を付与したもの | 業務、勤務及び報酬なし | 1990/12/20 | - |
| 竹中 博司 | 専務理事 | 代表取締役社長・CEOの補佐 | 従業員として常勤、 従業員としての報酬あり | 2013/4/4 | - |

元代表取締役社長等である相談役・顧問等の合計人数 3名

その他の事項

2. 業務執行、監査・監督、指名、報酬決定等の機能に係る事項(現状のコーポレート・ガバナンス体制の概要) 更新

(1) コーポレート・ガバナンス体制

当社は、現状、取締役会及び監査役会から構成される監査役会設置会社方式を採用しております。監査役会による経営の監督のもと、実効性のあるガバナンスを実現しております。

また、重要な業務執行の意思決定及び監督機能を有し、執行部による適切なリスクテイクを支える取締役会に加え、

・経営の公正性、実効性、透明性の確保を目的とする指名委員会、報酬委員会

・会社戦略の推進機関としてのCSS(Corporate Senior Staff)

・執行部における審議機関としての業務執行会議

を設置するなど、当社の持続的成長に向けた攻めのガバナンス実現に資する体制を敷いております。

コーポレート・ガバナンス体制の概要については、添付資料2「東京エレクトロン コーポレートガバナンス・ガイドライン」第 部 ガバナンスの体制 をご参照ください。

(2) 監査の体制

(監査役監査)

添付資料2「東京エレクトロン コーポレートガバナンス・ガイドライン」第 部 ガバナンスの体制 > 4. 監査役会 をご参照ください。

(内部監査)

添付資料2「東京エレクトロン コーポレートガバナンス・ガイドライン」第 部 ガバナンスの体制 > 5. 内部統制及びリスク管理(内部統制基本方針) をご参照ください。

(会計監査)

添付資料2「東京エレクトロン コーポレートガバナンス・ガイドライン」第 部 ガバナンスの体制 > 6. 会計監査人との関係 をご参照ください。

なお、2021年3月期における業務を執行した公認会計士の氏名及び継続監査年数は、宍戸通孝氏が2年、西野聡人氏が3年、鈴木紳氏が4年であり、会計監査の補助者は、公認会計士20名、その他38名であります。

3. 現状のコーポレート・ガバナンス体制を選択している理由

当社は、「最先端の技術と確かなサービスで夢のある社会の発展に貢献します」という基本理念のもと、グローバル競争に勝ちぬき、持続的成長と中長期的な企業価値の向上を実現するために、それを支えるコーポレート・ガバナンスの充実に取り組むことが重要であると考えております。

このような基本的な考え方のもと、当社は、取締役会と取締役会から独立した独任制の監査役会から構成される監査役会設置会社方式を採用しております。常勤監査役と過半数の社外監査役から構成される監査役会によって監査を実施する当該方式により、実効性のあるガバナンスを実現できていることから、当該体制を採用しております。

株主その他の利害関係者に関する施策の実施状況

1. 株主総会の活性化及び議決権行使の円滑化に向けての取組み状況

| | 補足説明 |
|--|---|
| 株主総会招集通知の早期発送 | 株主が株主総会議案の十分な検討時間を確保できるよう、招集通知の早期発送に努め、株主総会開催日の3週間前までに発送しております。 |
| 集中日を回避した株主総会の設定 | 株主総会開催日は、いわゆる集中開催日と予測される日を可能な限り避けて設定しております。 |
| 電磁的方法による議決権の行使 | インターネット等による議決権の電子行使の導入や議決権電子行使プラットフォームの利用を通じ、機関投資家や海外投資家を含めたすべての株主の議決権行使が円滑におこなわれるように機会を提供しております。 |
| 議決権電子行使プラットフォームへの参加その他機関投資家の議決権行使環境向上に向けた取組み | (株)ICJが運営する機関投資家向け議決権電子行使プラットフォームに参加しております。 |
| 招集通知(要約)の英文での提供 | 招集通知の英訳版を作成しております。 |
| その他 | 招集通知の発送に先立ち、金融商品取引所及び当社ウェブサイトでその内容を開示しております。招集通知の英訳についても、株主総会開催日の3週間前までに同様に開示しております。その他、議案の補足説明など、株主が株主総会において適切な判断をおこなうことに資する情報についても、必要に応じて当社ウェブサイトで開示しております。また、決議通知・株主総会のプレゼンテーション資料のウェブサイトへの掲載をおこなっております。 |

2. IRに関する活動状況 更新

| | 補足説明 | 代表者自身による説明の有無 |
|-------------------------|--|---------------|
| ディスクロージャーポリシーの作成・公表 | 当社は情報開示に対する考え方、情報開示の基準、情報開示の方法、業績予想等に関する留意事項、IR活動のスポークスパーソンについて「情報開示に関するポリシー」の中に定め、当社ウェブサイトに掲載しております。 | |
| アナリスト・機関投資家向けに定期的説明会を開催 | 決算説明会を年4回、原則決算発表と同日にCEO及び取締役専務執行役員(ファイナンス担当)をスピーカーとして実施しております。また、決算説明会とは別に、非財務説明会を個別に開催しております。 | あり |
| 海外投資家向けに定期的説明会を開催 | 国内外において、取締役会長、CEO及び取締役専務執行役員(ファイナンス担当)をスピーカーとしてIRカンファレンスへの参加や個別面談を実施しています。 | あり |
| IR資料のホームページ掲載 | 決算短信、決算説明会及び中期経営計画説明会・IR Dayプレゼンテーション資料、コーポレートアップデート(Investors' Guide)、株主総会関連資料、有価証券報告書、四半期報告書、アニュアルレポート・統合報告書、ファクトブック、サステナビリティレポート等を掲載しております。 | |
| IRに関する部署(担当者)の設置 | IR室にIR専任者を置いております。 | |
| その他 | 外国人投資家に対して公平な情報提供をおこなうため、説明会は日英同時通訳でライブ配信をおこない、開示情報は、原則全て英訳し、和文と同時にまたは和文開示後速やかに当社ウェブサイトに掲載しております。 (英訳IRサイト) https://www.tel.com/ir | |

3. ステークホルダーの立場の尊重に係る取組み状況 更新

| | 補足説明 |
|------------------------------|---|
| 社内規程等によりステークホルダーの立場の尊重について規定 | <p>経営理念において当社の社会的責任について明文化しております。</p> <p>また、当社の持続的成長に向けたステークホルダーとの信頼関係の構築や、ステークホルダーとの協働については、添付資料2「東京エレクトロン コーポレートガバナンス・ガイドライン」第 部 理念 > 3. 当社の持続的成長に向けたステークホルダーとの信頼関係等の構築 及び 第 部 ステークホルダーとの協働 をご参照ください。</p> |
| 環境保全活動、CSR活動等の実施 | <p>当社では、気候変動は社会における喫緊の課題であるとの認識のもと、半導体デバイスの高性能化と低消費電力化に寄与する革新的な製造技術の提供に努めるとともに、中長期環境目標を設定し製品や事業所におけるCO2排出量の削減に取り組んでいます。またE-COMPASSを立ち上げサプライチェーン全体で環境負荷低減を推進しています。加えてTCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)に賛同し気候変動が当社事業におよぼすリスクと機会の検討をおこなっています。</p> <p>当社におけるCSRの活動は、基本理念を実践する取り組みです。企業としての社会における役割を果たすべくCSR方針を制定し、事業活動を通じて産業や社会の課題解決や発展に貢献するとともに、SDGs(国連の持続可能な開発目標)の達成に寄与する様々な活動を展開しています。当社ではサステナビリティレポート及び統合報告書を作成し、これらの活動と成果について公開をしています。</p> <p>装置メーカーとしての専門性を活かし、あらゆる経営資源を活用し「デジタルxグリーン」の実現に努めることでステークホルダーの期待に応え、夢のある社会の発展に貢献します。</p> |
| ステークホルダーに対する情報提供に係る方針等の策定 | <p>ステークホルダーの皆さまに当社を十分理解いただくために有効と思われる情報を、適時開示のルールに則り、タイムリーかつ適切に開示しております。当社の情報発信は公的機関への情報開示、プレスリリース、各種報告書の発行、当社ウェブサイトの活用などとともに、双方向の意見交換が可能な連絡窓口として、投資家への対応を担うIR室、メディア等への対応を担う総務部広報グループ等を設置し、迅速かつ適切なコミュニケーションを可能とするよう努めております。</p> <p>また、サステナビリティレポートや統合報告書などを通じて、非財務情報に関する開示の拡充にも努めております。</p> |

内部統制システム等に関する事項

1. 内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況 更新

当社は、内部統制担当執行役員を任命し内部統制システムの整備・強化を図っております。また、内部統制の要諦であるリスク管理、コンプライアンスに関しましても、担当執行役員の指揮のもと、リスク管理、コンプライアンス活動を推進しております。これらの活動状況については、担当執行役員が定期的に取締役会に報告しております。

当社が、業務の適正を確保するための体制の基本方針として取締役会において決議した内容は、次のとおりであります。

内部統制基本方針

1. 取締役・使用人の職務執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
 - (1) 当社グループの取締役及び従業員には、法令・定款を遵守するとともに高い倫理観をもって行動することが求められる。
 - (2) 当社グループの取締役及び従業員は、『東京エレクトロングループ倫理基準』及び『コンプライアンス規程』をはじめとするコンプライアンス体制にかかる規程を役職員の行動規範とし、これを実践しなければならない。
 - (3) 企業倫理の徹底を図るため、倫理委員会及び法令遵守の取り組みに関する活動を担当する執行役員は定期的に取締役会に報告するものとする。
 - (4) 代表取締役社長の直轄組織として設置する内部監査部門は、業務執行状況の内部監査を行う。この内部監査には、コンプライアンス違反の有無の監査も含まれるものとする。
 - (5) 監査役は、取締役の職務執行の監査を行うにあたり、取締役の法令・定款に違反する行為があったとき、又はするおそれがあると認められた時は、取締役に対して助言又は勧告を行うなど、必要な措置を講じる。
 - (6) 法令上疑義のある行為などについて、従業員が直接情報提供を行う手段として設置した内部通報制度(ホットライン)の維持・運営を図る。この場合、通報者の希望により匿名性を保証するとともに、不利益のないことを確保する。
 - (7) 当社グループの財務報告の適正性及び信頼性を確保するための体制を構築し、その体制の整備・運用状況の有効性評価を定期的に行う。
 - (8) 市民社会の秩序・安全ならびに企業活動を阻害する恐れのある反社会的勢力とは一切関係を持たないこととし、不当な要求等に対しては断固としてこれを拒絶する。
2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存、管理及び報告に関する体制
 - (1) 『文書管理規程』に従い、取締役の職務執行に係る情報を文書又は電磁的媒体に記録し、保存する。
 - (2) 取締役の職務執行に係るこれらの文書等が速やかに閲覧できる状態を維持するものとする。
 - (3) 『関係会社管理規程』に従い、グループ会社の業績・財務状況その他の重要な情報について、当社への定期的な報告を義務付ける。
3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
 - (1) 『リスク管理規程』において管理すべきリスクの種類の特定及びリスク管理体制の明確化を図る。
 - (2) 同規程においてリスク毎の責任部署を定め、グループ全体のリスクを管理し、リスク管理体制を明確化し、適正な運営を図る。
 - (3) 地震等のリスクにおける事業の継続を確保するための態勢整備を継続推進する。
 - (4) 重要リスクに関しては、状況及び対応策を業務担当取締役が定期的に取締役会に報告する。
4. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
 - (1) 取締役会は、経営の執行方針、法令で定められた事項などグループ経営の重要事項を決定するとともに、当社グループ全体の業務執行状況を監督する。
 - (2) 取締役会の意思決定の有効性を客観的に確保する観点から、社外(独立)取締役の招聘に取り組むものとする。
 - (3) 取締役会は、取締役会決議によって、代表取締役・業務執行取締役及び執行役員に所管業務の執行を行わせる。
 - (4) 当社は『取締役会規程』、『職務権限規程』、『決裁基準に関する規程』により、権限及び意思決定に関する基準を定め、グループ会社にこれらに準拠した体制を構築させる。
5. 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
 - (1) 当社グループの企業集団としての業務の適正と有効性を確保するために必要となる、グループ全体に適用すべき規程類を整備する。
 - (2) 監査役は、当社グループ全体の監視・監査を実効的かつ適正に行えるよう当社グループ会社の監査役との連携体制を構築する。
 - (3) 内部監査部門は、企業集団の業務における適正性の確保状況についての監査を行う。
6. 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項及びその使用人の取締役からの独立性及び実効性に関する事項
 - (1) 監査役が、監査役を補助すべき使用人を置くことを求めた場合は、監査役付使用人を配置する。
 - (2) 監査役付使用人は、監査役の指示に従いその職務を行い、他部署の使用人を兼務する場合にも、監査役職務の補助業務を優先する。
 - (3) 前項の使用人の独立性を確保するため、当該使用人の任免、異動、人事考課等人事に係る事項に関しては、常勤監査役の同意を必要とする。
7. 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制
 - (1) 当社グループの取締役、監査役及び従業員は、法令に違反する事実及び当社及び当社グループに重大な影響を及ぼす事項を発見したときは、当社監査役に対して速やかに報告しなければならない。また、当社グループは当社監査役への報告者に対して不利益のないことを確保する。
 - (2) 当社グループの内部通報制度の担当部署は、当社グループの取締役、監査役及び従業員からの内部通報の状況について、定期的に当社監査役に対して報告する。
 - (3) 各監査役は、重要会議への出席、重要な決裁書類の閲覧を行う他、必要に応じて、取締役及び担当執行役員その他各部門に対して、報告を求めることができる。
 - (4) 監査役会は、内部監査部門から内部監査結果についての報告を受けるものとする。
8. その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
 - (1) 内部統制を有効に構築する目的で、監査役と代表取締役との定期的意見交換の場を設けるものとする。
 - (2) 監査役会は、内部統制を有効に構築する目的で、会計監査人及び内部監査部門との情報共有を行う。
 - (3) 監査の妥当性を客観的に確保する観点から、社外(独立)監査役の招聘に取り組むとともに、常勤監査役を置く。
 - (4) 監査役会は、監査の実施にあたり独自の意見形成を行うため、必要に応じて、会社の費用で法律・会計等の専門家を活用することができる。
 - (5) 監査役がその職務の執行について生ずる費用等を請求したときは、当該監査役の職務の執行に必要な場合を除き、当社はこれを負担する。

業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

添付資料2「東京エレクトロン コーポレートガバナンス・ガイドライン」第 部 ガバナンスの体制 > 5. 内部統制及びリスク管理(内部統制基本方針) をご参照ください。

2. 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

当社グループの役員及び社員が守るべき倫理基準を制定しており、その中で反社会的勢力排除に関する項目を掲げて取り組んでおります。

(行動規範)

「TELグループは反社会的勢力とは一切取引しません。また、そのような組織からの不適切な要求は断固拒否し、いかなる理由があっても資金提供や便宜を図る行為はおこないません。」

その他

1. 買収防衛策の導入の有無

買収防衛策の導入の有無

なし

該当項目に関する補足説明

2. その他コーポレート・ガバナンス体制等に関する事項

適時開示体制の概要

当社の会社情報の適時開示にかかる社内体制の状況は、下記のとおりです。

1. 基本的な考え方

当社におきましては、投資家への適時・適切な会社情報の開示が、株式等にかかる公正な価格形成に貢献し、広く金融商品市場の健全化に資することを目指しております。

こうした観点のもと、当社は「適時開示規程」を制定し、投資者の投資判断に重要な影響を与える事実や決算情報等を把握・管理し、適時・適切な開示に取り組んでおります。

2. 会社情報の適時開示に関する社内体制

(1) 適時開示手続き

1. 開示担当部門が取締役会の事務局を担当しているほか、担当執行役員が重要な会議に出席することにより、当社グループの情報を網羅的に収集できる体制となっております。
2. 適時開示の公表の担当は、原則として法務部長としますが、公表の内容に応じ、経理部長がこれにあたる場合があります。また、法務部を事務取扱部署として、関連部署による社内チェックを実施しております。
3. 情報に対する適時開示の要否の判定は、情報取扱責任者(担当執行役員)の指揮のもと、法務部長が原則としてこれをおこないます。法務部長は、適時開示の要否判定にあたり、(株)東京証券取引所の「有価証券上場規程」及び「会社情報適時開示ガイドブック」をもとに、関連部署(法務部、経理部、IR室等)との検討をおこなうとともに、必要に応じて、(株)東京証券取引所に照会をおこなうものとします。
4. 決定事実や決算情報については、取締役会決議が必要とされる場合は取締役会の承認を得た上で、速やかに開示します。ただし、発生事実や決算情報のうち業績予想並びに配当予想の修正等にかかる情報など、適時開示の主旨に則り速やかに開示することが求められる事項については、情報取扱責任者が代表取締役と協議の上、取締役会への付議を経ず直ちに開示をおこなうことがあります。
5. (株)東京証券取引所の提供する「適時開示情報伝達システム(TDnet)」への登録は、法務部がおこないます。

(2) 内部者取引の防止

内部者取引を未然に防止することを目的に、「内部者取引防止に関する規程」において、役員・従業員等がその職務に関して取得する情報管理・服务等の基本的事項を定め、運用しております。また、未公表の決算情報については重要事実として、各四半期において、それぞれの決算期末日から決算発表までの期間は役員及び社員による当社株式の売買を禁止する期間を設けております。

3. 広報・IR活動

投資者等に対する会社情報の提供のため、(株)東京証券取引所のTDnetへの適時開示以外にも、総務部、IR室を担当部署として、以下のような広報・IR活動を自主的におこなっております。

- (1) 当社ウェブサイトへの適時開示情報掲載
- (2) 決算説明会の開催(四半期毎)
- (3) 情報開示後の照会の対応
- (4) その他投資判断に影響を与えると判断した情報の自主公表

本報告書III2「IRに関する活動状況」もご参照ください。

対応状況表

■ コーポレートガバナンス・コードにおいて開示すべきとされる各事項の実施状況

| コーポレートガバナンス・コード | 当社コーポレートガバナンス・ガイドライン上の記載箇所 | 該当ページ |
|---------------------------------|----------------------------|---------------|
| 原則 1-4 政策保有株式 | Ⅱ1(5) | P. 7 |
| 原則 1-7 関連当事者間の取引 | Ⅱ1(8) | P. 7 |
| 補充原則 2-4① 中核人材の登用等における多様性の確保 | Ⅱ2(3) | P. 8~9 |
| 原則 2-6 企業年金のアセットオーナーとしての機能発揮 | Ⅱ2(6) | P. 10 |
| 原則 3-1(iv) 情報開示の充実 | Ⅲ3(2)(3) | P. 13~15 |
| 原則 3-1(v) 情報開示の充実 | Ⅲ3(2)、別紙3 | P. 13, 25~27 |
| 原則 3-1の(iv)、(v)以外 情報開示の充実 | I、Ⅲ3(6) | P. 2~4, 16~18 |
| 補充原則 3-1③ サステナビリティについての取組み等 | Ⅱ2(2)(4)(5) | P. 8~10 |
| 補充原則 4-1① 経営陣に対する委任の範囲 | Ⅲ3(1)② | P. 12~13 |
| 原則 4-9 独立社外取締役の独立性判断基準及び資質 | Ⅲ3(2)②、別紙2 | P. 13, 23~24 |
| 補充原則 4-11① 取締役会の多様性及び規模に関する考え方 | Ⅲ3(2)、別紙4 | P. 13~14, 28 |
| 補充原則 4-11② 取締役・監査役の兼任状況 | 別紙3 | P. 25~27 |
| 補充原則 4-11③ 取締役会の実効性評価 | Ⅲ3(9) | P. 19 |
| 補充原則 4-14② 取締役・監査役に対するトレーニングの方針 | Ⅲ3(8) | P. 19 |
| 原則 5-1 株主との建設的な対話に関する方針 | Ⅱ1(4) | P. 6 |

2021年12月24日
第11版

東京エレクトロン コーポレートガバナンス・ガイドライン

目次

- | | |
|--|---|
| <p style="text-align: center;">第Ⅰ部 理念</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方 2. 企業理念 3. 当社の持続的成長に向けたステークホルダーとの信頼関係等の構築 4. 経営方針 5. 中期経営計画 6. 資本政策の基本的な方針 <p style="text-align: center;">第Ⅱ部 ステークホルダーとの協働</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 株主との適切な協働 <ol style="list-style-type: none"> (1) 株主の権利確保 (2) 株主総会における権利行使 (3) 適切な情報開示と透明性の確保 (4) 株主との建設的な対話 (5) 政策保有株式に関する方針 (6) 買収防衛策に対する考え方 (7) 株主の利益を害する可能性のある資本政策 (8) 関連当事者間の取引 2. 株主以外のステークホルダーとの適切な協働 <ol style="list-style-type: none"> (1) 東京エレクトロングループ倫理基準の策定及び徹底に向けた取り組み等 (2) サステナビリティを巡る諸課題への積極的な取り組み (3) 社内の多様性の確保等 (4) 人的資本への投資 (5) 知的財産への投資 (6) 企業年金基金のアセットオーナーとしての機能発揮 | <p style="text-align: center;">第Ⅲ部 ガバナンスの体制</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 当社の持続的成長につながるガバナンスの基本的な考え方 2. 持続的成長に向けた「攻めのガバナンス」実現のための体制 3. 取締役会 <ol style="list-style-type: none"> (1) 取締役会の役割・責務 (2) 取締役会全体としての知識・経験・能力のバランス、多様性及び規模に関する考え方 (3) 取締役、CEOの指名 (4) 最高経営責任者等の後継者の育成に向けたプランニング (5) CEOを含む執行部に対する公正な評価 (6) 取締役、CEOの報酬 (7) 取締役会の議論の活性化に向けた取り組み等 (8) 取締役のトレーニング (9) 取締役会の実効性評価 4. 監査役会 <ol style="list-style-type: none"> (1) 監査役会構成 (2) 監査役報酬 (3) 監査役と執行部、内部監査部門、会計監査人との連携 (4) 監査役監査の実効性 5. 内部統制及びリスク管理（内部統制基本方針） 6. 会計監査人との関係 <p>別紙</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コーポレート・ガバナンス体制の模式図 2. 社外役員の独立性判断基準 3. CEO・取締役・監査役の個別選任理由及び他の上場会社との兼職の状況 4. スキルマトリックス、取締役会の多様性の状況 |
|--|---|

東京エレクトロン コーポレートガバナンス・ガイドライン

第I部 理念

1. コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方 【原則 3-1(i)及び(ii)】

当社は、最先端の技術と確かなサービスで、夢のある社会の発展に貢献しますという基本理念のもと、グローバル競争に勝ちぬき、持続的成長と中長期的な企業価値の向上を実現するために、それを支えるコーポレート・ガバナンスの充実に取り組むことが重要であると考えております。

当社のコーポレート・ガバナンス強化のため、当社がもつワールドワイドのリソースを最大限活用する仕組みを構築し、経営基盤及び技術基盤を強化し、グローバル水準の収益力を確立できるよう、体制を整備します。

加えて、当社が夢と活力に満ちた会社であり続けることが、社員の高いモチベーションを支え、当社の持続的な成長を支える基盤になるものと考えております。

本ガイドラインは、それらの実現に資するガバナンスの枠組みを示すものであります。¹

2. 企業理念 【原則 2-1、3-1(i)】

当社の企業理念は、企業としての使命とその実現に向けて大切にしている価値観、具体的な行動のあり方など、基本理念・経営理念・CSR方針・TEL Valuesの4つの要素²によって構成されております。



<基本理念>

最先端の技術と確かなサービスで、夢のある社会の発展に貢献します

<経営理念>

- ・ **利益について**
社会や産業の発展に貢献すべく、利益の追求を重視し企業価値の向上を目指します。
- ・ **事業分野について**
エレクトロニクスを中心とする最先端技術分野において、高品質な製品を提供し市場をリードします。
- ・ **成長について**
技術革新に常に挑戦し、事業拡大と市場創出により継続的な成長を図ります。
- ・ **品質とサービスについて**
顧客の満足と信頼を得るために真のニーズを理解し、品質とサービスの向上に努めます。
- ・ **社員について**
社員は価値創出の源泉であり、創造性と責任感と強いチームワークで情熱をもって業務に取り組めます。
- ・ **組織について**
個々の能力を最大限に発揮し、企業価値を最大化する最適な組織を築きます。
- ・ **安全と健康と環境について**
事業に関わるすべての人々の安全と健康、及び地球環境への配慮を第一に考えて行動します。
- ・ **企業の社会的責任について**
企業としての社会的責任を自覚し、社会から高く評価され社員が誇りを持てる企業であるよう心がけます。

¹ 本ガイドラインのほか、統合報告書、サステナビリティレポートをあわせてご参照ください。

² 当社の企業理念の4つの要素についての詳細はこちら <https://www.tel.co.jp/about/ptc/>

<CSR 方針>

東京エレクトロンにおける CSR の推進は、創立以来大切にしている基本理念を体現する取り組みです。当社では、企業統治や法令遵守、倫理などの観点から持続可能なオペレーションを追求するとともに、製品やサービスの提供による新たな価値の創造により、社会課題の解決に貢献すべく CSR 活動を展開しています。これからも CSR 活動を通してステークホルダーの皆さまとの信頼関係の構築に努め、企業価値を向上させることで、持続可能な夢のある社会の発展に貢献したいと考えています。

<TEL Values>

当社の成長の原動力や大切な価値観をまとめたもので、当社の取締役、監査役、全社員が実践する行動規範です。

- | | |
|-----------------------|--|
| ・誇り | 私たちは、自らが誇りを持てる高い価値を持った製品・サービスを提供します。 |
| ・チャレンジ | 私たちは、世界 No.1 をめざし、新しいこと、人のやらないことにチャレンジします。 |
| ・オーナーシップ ³ | 私たちは、オーナーシップを持って、考え抜き、やり抜き、やり遂げます。 |
| ・チームワーク | 私たちは、お互いを認め合い、チームワークを大切にします。 |
| 自覚 | 私たちは、社会の一員としての自覚を持ち、責任のある行動をします。 |

3. 当社の持続的成長に向けたステークホルダーとの信頼関係等の構築⁴ 【基本原則 2、原則 3-1(i)】

ステークホルダーは当社を支える重要な存在との認識のもと、以下の考えに基づき、当社は、ステークホルダーとの信頼関係を築き、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の創出を実現してまいります。

- 株主・投資家
株主・投資家に対する受託者責任を果たすべく、収益性及び資本効率を向上させ、株主価値向上に努めます。
- 顧客
顧客第一主義のもと、革新的な技術力と多様なテクノロジーを融合する独創的な提案力で、付加価値の高い製品・サービスを提供します。
- 社員
企業の発展の根幹は社員であり、一人ひとりが創造性と責任感と情熱をもち、多様な人材がもてる能力を存分に発揮できる「夢と活力に満ちた」会社であり続けることを目指します。
- 取引先
取引先との持続的な信頼関係に基づき、高度かつ高品質なものづくり力を培っていきます。
- 社会
事業成長を通じて、事業を取り巻く社会的課題の解決に取り組み、夢のある社会の発展に貢献します。

4. 経営方針 【原則 3-1(i)、補充原則 5-2①】

当社グループは、技術専門商社からスタートし、開発製造機能をもつメーカーへの移行、グローバルな販売・サポート体制の構築など、事業環境の変化をいち早く捉え、その変化に素早く応えることにより、世界の市場に高い付加価値をもつ製品・サービスを提供してまいりました。また、当社は、半導体製造装置やその関連分野を中心に、技術革新が新たな価値を生み、高付加価値かつ高収益を期待できる事業領域において、独創的な技術で時代をリードすることを通じて成長を続けてきました。

当社の原動力は、半導体及び FPD 製造装置のリーディングカンパニーとして育んだ豊かな技術力、確かな技術サービスに基づく顧客からの信頼、そして環境変化に柔軟かつ迅速に対応できる社員と、そのチャレンジ精神です。

今後も技術革新による価値創出が見込まれるエレクトロニクス技術を基盤とした成長分野において、当社のもつ最先端技術を活かして事業を推進し、ワールドクラスの高収益企業を目指してまいります。

³ オーナーシップ…目標を達成するために、一人ひとりが目の前にある問題を自分の課題として捉え自らが率先して行動すること

⁴ 当社のステークホルダーとの関わりについての詳細はこちら
<https://www.tel.co.jp/csr/materiality/>

5. 中期経営計画 【原則 3-1(i)】

当社グループは、グローバル水準の強固な経営基盤による、持続的な企業価値の向上を目指しております。当社グループのさらなる成長に向けて財務モデルを改定し、ベストプロダクト、ベストテクニカルサービスを継続的に追求し、ワールドクラスの営業利益率と ROE（自己資本利益率）を目指してまいります。

➤ ビジョン

当社グループは、革新的な技術力と、多様なテクノロジーを融合する独創的な提案力で、半導体と FPD 産業に高い付加価値と利益を生み出す真のグローバルカンパニーを目指しております。

➤ 財務モデル

当社グループにとっての成長ポテンシャルを最大限取り込みながら、同時に財務体質を着実に強化し、2024 年 3 月期までに、売上高 2 兆円、営業利益率 30%以上、ROE30%以上の達成を目指すものとしております。

なお、当社グループが示す財務モデルは、将来の売上高規模の予想ではなく、売上高規模ごとに目指すべき経営の効率性を示したものであります。これらの財務モデルの実現を通して、当社グループはワールドクラスの営業利益率と ROE を目指してまいります。

| | | | |
|-------|-----------|-----------|-------|
| 売上高 | 1 兆 5 千億円 | 1 兆 7 千億円 | 2 兆円 |
| 営業利益率 | 26.5% | 28.0% | 30%以上 |
| ROE | 30%以上 | | |

■ 取組状況

- 財務モデル達成に向けた今後の主な取り組み

- ・ ベストプロダクトの創出に向け、当社が得意とする分野、蓄積された技術、経営ノウハウが活きる半導体・FPD 製造装置分野でビジネスを展開
- ・ 顧客が必要とする高付加価値の最先端技術製品をいち早く市場に投入し、最良の技術サービスを提供
- ・ 世界をリードする技術革新力を維持向上させるため、強い財務基盤を活かした積極的な研究開発投資を継続
- ・ 業界最多となる装置出荷実績をもとに、高度なフィールドソリューションの提供を通じた、アフターマーケットにおける収益拡大
- ・ 装置データや AI の活用による高効率、高付加価値サービスの提供

6. 資本政策の基本的な方針 【原則 1-3】

上述の経営方針及び経営計画を踏まえ、当社の資本政策の基本方針については以下のように考えております。

➤ 資本効率についての考え方

成長投資に必要な資金を確保し、積極的な株主還元継続的に取り組み、中長期的成長の視点をもって、適切なバランスシート・マネジメントに努めてまいります。具体的には、営業利益率、資産効率をさらに高め、キャッシュ・フローの拡大に努め、ROE（自己資本利益率）の向上を図ります。

➤ 株主還元策

当社の配当政策は業績連動型を基本とし、親会社株主に帰属する当期純利益に対する配当性向 50%を目処とします。ただし、1 株当たりの年間配当金は 150 円を下回らないこととします。なお、2 期連続で当期利益を生まなかった場合は、配当金の見直しを検討します。

また、自己株式の取得については、機動的に実施を検討します。

第Ⅱ部 ステークホルダーとの協働

1. 株主との適切な協働

当社の持続的な成長には、当社を取り巻く様々なステークホルダーとの協働が不可欠と考えております。特に資本提供者である株主との適切な協働は、コーポレート・ガバナンスの規律において重要です。当社は、株主が有する権利が実質的に確保され、それらを円滑に行使できるよう配慮し、株主との適切な協働に努めます。

(1) 株主の権利確保 【原則 1-1、補充原則 1-1②、1-1③】

当社は、株主総会における議決権をはじめとする株主の権利が正しく確保されるよう対応します。また、当社取締役会は、コーポレート・ガバナンスに関する役割・責務を適切に果たす体制を整えます。さらに、少数株主の権利についても平等性の確保のため十分な配慮をおこないます。

(2) 株主総会における権利行使 【原則 1-2】

当社は、株主総会が株主との建設的な対話の場であると認識し、株主の視点に立ち、株主総会における権利行使が適切におこなえるよう環境を整備します。

■ 取組状況

| | |
|---------|---|
| 株主総会開催日 | ・当社の株主総会開催日は、いわゆる集中開催日と予測される日を可能な限り避けて設定します。 |
| 招集通知発送日 | ・当社は、株主が株主総会議案の十分な検討時間を確保できるよう、招集通知の早期発送に努め、株主総会開催日の3週間前までに発送します。 |
| 資料提供 | ・招集通知の発送に先立ち、金融商品取引所及び当社ウェブサイトでその内容を開示します。 ・招集通知の英訳については、株主総会開催日の3週間前までに同様に開示します。 ・議案の補足説明など、株主が株主総会において適切な判断をおこなうことに資する情報についても、必要に応じて当社ウェブサイトを開示します。 |
| 議決権行使 | ・当社は、インターネット等による議決権の電子行使の導入や議決権電子行使プラットフォームの利用を通じ、機関投資家や海外投資家を含めた全ての株主の議決権行使が円滑におこなわれるように機会を提供します。 ・信託銀行等の名義で株式を保有する機関投資家が、株主総会において信託銀行等に代わって自ら議決権の行使等をおこなうことをあらかじめ希望する場合は、信託銀行等と協議の上、可能な範囲での対応を検討します。 |

(3) 適切な情報開示と透明性の確保 【原則 3】

当社は、投資家への適時・適切な会社情報の開示が、株式等にかかる公正な価格形成に貢献し、広く金融商品市場の健全化に資することを目指しております。こうした観点のもと、「適時開示規程」を制定し、投資者の投資判断に重要な影響を与える事実や決算情報等を把握・管理し、適時・適切な開示に取り組んでまいります。

加えて、ステークホルダーに当社を十分理解いただくために有効と思われる非財務情報に関する開示の拡充にも努めます。

■ 取組状況

当社の情報発信は公的機関への情報開示、プレスリリース、各種報告書の発行、当社ウェブサイトの活用などとともに、双方向の意見交換が可能な連絡窓口として、投資家への対応を担うIR室、メディア等への対応を担う総務部広報グループ等を設置し、迅速かつ適切なコミュニケーションを可能とするよう努めております。

(4) 株主との建設的な対話 【原則 5-1】

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に資するよう、株主を含む投資家との間で日頃から建設的な対話をおこなうよう努めます。対話を促進するための体制整備及び取り組みに関する方針は次の通りです。

株主との建設的な対話を促進するための体制整備及び取り組みに関する方針

① 基本的な考え方 【補充原則 5-1①】

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に資する建設的な対話を全世界でより多くの投資家ともつために、積極的に対話の機会を設けるよう努めます。また、取締役会長、CEO（最高経営責任者）及びファイナンス担当の取締役自らが、合理的かつ可能な範囲で直接対話に臨むことを重視します。

② 株主との対話全般 【補充原則 5-1②(i)】

株主を含む投資家との対話については CEO 直轄部門である IR 室が担い、CEO が統括します。投資家から個別の要望がある場合には、必要に応じて CEO や担当取締役が対話に臨みます。

③ 対話を補助する社内の有機的な連携のための方策 【補充原則 5-1②(ii)】

IR 室が中心となって、株主の意見・要望等に応じて、事業・マーケティング・管理部門などの関係部門と有機的に連携することにより株主との建設的な対話の実現を補助します。

④ 個別面談以外の対話の手段 【補充原則 5-1②(iii)】

四半期ごとの決算説明会をはじめ、事業説明会、オンライン会議を実施するほか、海外ロードショーの実施、証券会社主催の国内外のカンファレンスへの参加、当社工場見学会の実施など積極的に対話の機会を設けます。加えて、統合報告書、ファクトブック、当社ウェブサイトなどにおいて会社情報の積極的な発信に努めます。

⑤ 株主意見のフィードバック 【補充原則 5-1②(iv)】

IR 室は、個別面談を通じて得られる投資家からの意見・質問などについては、経営及び企業価値向上に活かせるよう、定期的に CEO 及び代表取締役、担当取締役に対して報告し議論します。また、重要事項については、適宜 CEO 等から取締役会に報告し議論します。

⑥ インサイダー情報の管理 【補充原則 5-1②(v)】

重要な会社情報を適切に管理し、公正・公平かつタイムリーな情報開示を実施するとともに、インサイダー取引の未然防止を図るために社内規程を定め、周知徹底をおこないます。また未公表の決算情報については重要事実として、各四半期において、それぞれの決算期末日から決算発表までの期間は役員及び社員による当社株式の売買を禁止する期間を設けます。

⑦ 株主構成の把握 【補充原則 5-1③】

定期的の実質株主による株式保有状況を調査することで、株主構成の把握に努めるとともに、投資家との建設的な対話に活用します。

⑧ 経営戦略や経営計画の策定・公表 【原則 5-2】

当社は事業環境の変動や株主からの期待等を反映した総合的なものとして自社の株主資本コストを認識しておりますが、経営戦略や経営計画の策定にあたっては、事業の安定性とのバランスを重視し、株主資本コストを上回る資本効率を実現することを目指します。当社は、収益計画や資本政策の基本的な方針を示し、売上高、売上総利益率、営業利益率、親会社株主に帰属する当期純利益、ROE（自己資本利益率）などの収益力・資本効率等に関する目標を提示するとともに、その実現に向けた具体的な施策について株主に分かりやすく説明をおこないます。

(5) 政策保有株式に関する方針 【原則 1-4】

① 上場株式の政策保有に関する方針

当社は政策保有株式を持たないことを基本方針としております。ただし、発行会社との関係性において、中長期的な関係維持、安定的な調達、技術提携の維持のための取引先への出資など、当該株式を保有する高度の合理性があると判断する場合に限り、当社は他社株式を保有します。

保有株式については、株式取得時の投資目的や直近の事業戦略等との整合性、株式保有による便益やリスクといった観点から、執行部が定期的に保有の合理性を検証し、取締役会において報告することとしております。上記の検証の結果、保有の合理性が乏しいと判断した場合には、株式の売却等を検討いたします。

② 政策保有株式にかかる議決権行使に関する方針

当社が保有している株式の議決権行使にあたっては議案内容を精査し、株主として必要に応じて発行会社と対話し、当社及び発行会社の中長期的な企業価値向上の観点から、議案に対する賛否を判断します。株主価値を毀損する可能性があるとして当社が判断した議案に対しては反対票を投じます。

(6) 買収防衛策に対する考え方 【原則 1-5】

当社は、いわゆる買収防衛策を導入しません。企業価値の向上こそが、最大の買収防衛策と考えます。買収提案があった場合は、企業価値、株主価値への短・中・長期的影響を総合的に勘案した上で、適切に対応します。

(7) 株主の利益を害する可能性のある資本政策 【原則 1-6】

支配権の変動や株式の大規模な希釈化をもたらすような施策については、既存株主を不当に害することがないように、当社は当該施策の必要性・合理性について入念に検討し、株主に十分な説明をおこない、適正な手続きに則り進めます。

(8) 関連当事者間の取引 【原則 1-7】

当社においては、取締役及び監査役と当社における取引、競業取引などの当社と取締役及び監査役との利益が相反する取引がおこなわれる場合には、取締役会での承認を義務づけます。また、当該取引の実施後には、当該取引にかかる重要な事項について、取締役会への報告を求めます。

■ 取組状況

- 取締役及び監査役並びにその親族と当社との取引の有無については、毎年定期的に調査を実施しております。
- 当社と主要株主との間の取引に関しては、現在、当社には主要な株主（10%以上の議決権を有する株主をいいます）に該当する株主はおりません。主要な株主が生じた場合には、上記に準じて取引の適正性を図る手続きを経ることとします。

2. 株主以外のステークホルダーとの適切な協働

当社の持続的な成長には、株主以外のステークホルダーとの適切な協働もまた不可欠です。ステークホルダーの権利・立場を尊重し、企業倫理を遵守する風土の醸成が社会・経済全体に発展をもたらし、結果的に当社の事業にさらなる成長の基盤が確立されるものと考えております。

(1) 東京エレクトロングループ倫理基準の策定及び徹底に向けた取り組み等

【原則 2-2、補充原則 2-2①】

当社は、高い水準での企業倫理、法令遵守を当社グループ全体で保持するとともに、法律や国際的なルールを遵守して行動することを第一義と考え、「東京エレクトロングループ倫理基準」⁵を定め、全社員への周知徹底に努めております。

また、企業倫理を浸透させるための運用機関として倫理委員会を設置しております。

加えて、当社の成長の原動力となる固有の価値観をまとめた「TEL Values」(第 I 部 2 参照) を制定し、当社の取締役、監査役、全社員が実践すべき行動規範としております。

⁵ 東京エレクトロングループ倫理基準についての詳細はこちら
<https://www.tel.co.jp/about/compliance/>

(2) サステナビリティを巡る諸課題への積極的な取り組み

【原則 2-3、補充原則 2-3①、3-1③、4-2②】

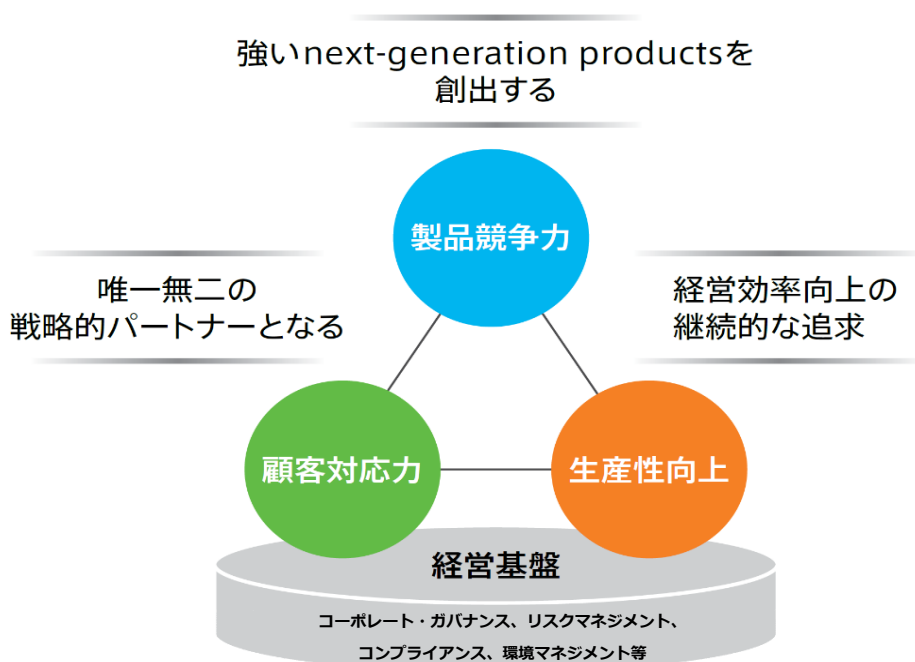
中長期的な利益の拡大と継続的な企業価値の向上を実現するためには、環境や人権をはじめとするサステナビリティを巡る社会課題に対して、サプライチェーン全体で積極的・能動的に対応していく必要があると考えております。業界のリーディングカンパニーとして培った半導体及び FPD の製造装置メーカーとしての専門性を活かし、価値創出の源泉である社員をはじめ、あらゆる経営資源を活用し、社会的テーマであるデジタルとグリーンの両立という共有価値の実現に貢献していきます。

こうした考えのもと、社会環境や事業環境の整理、リスクと機会の検討、またステークホルダーとの積極的な対話などをおこなうことにより、中長期的な企業価値の向上において、重要かつ優先的に取り組むべきマテリアリティを特定しています。

また、当社の事業を展開することにより産業や社会の課題解決や、国連で採択された SDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献し、サステナブルな社会の構築に寄与していきます。

■ 取組状況

- マテリアリティは、取締役会長や代表取締役社長・CEO 及びサステナビリティに関する取締役が参加するサステナビリティ定例会議にて決定しています。各マテリアリティにおいてその重点テーマに鑑み、年度目標及び中期目標を設定し、事業活動を通じてそれらの達成に努めています。⁶



- 当社は持続可能なサプライチェーン構築に向け、環境にフォーカスした新たな取り組みとして E-COMPASS（Environmental Co-Creation by Material, Process and Subcomponent Solutions）を立ち上げました。業界のリーディングカンパニーとして、環境負荷低減にサプライチェーン全体で取り組み、製品の競争力と付加価値向上に努めています。

(3) 社内の多様性の確保等 【原則 2-4、補充原則 2-4①】

当社においてダイバーシティ&インクルージョンは、継続的なイノベーションの創出、企業価値の向上につながる経営の柱であり、経営陣の強いコミットメントのもと、国籍、性別（ジェンダー）、ジェネレーションを大きなテーマとして捉え、積極的に取り組んでいます。

⁶ 当社のマテリアリティに関する取り組みの詳細はこちら

<https://www.tel.co.jp/csr/materiality/>

■ 取組状況

- 取締役会の多様性確保という点について、2021年12月時点において、取締役12名のうち、外国籍1名、女性2名となっております。また、グローバル企業として、米国、欧州、アジアなど海外グループ会社の社長には原則として現地人材を任用するとともに、海外の人材に本社ポジションの役割を担ってもらう等、国を越えた適材適所を推進しております。あわせて、執行役員及び海外現地法人などの経営幹部で構成されるCSS (Corporate Senior Staff) を四半期ごとに開催し、経営戦略のグローバル展開をスピード感をもって推進できるようにしています。
- ダイバーシティ&インクルージョンは、地域ごとの特性などを考慮の上、地域ごとに目標値とアクションプランを設定し、様々な取り組みを展開しています。
 - ・サクセッションプランニングにおいて、ダイバーシティを意識したタレントパイプライン（人材育成計画）形成をおこない、管理職における女性比率向上を推進
 - ・従業員の大半をエンジニアが占める当社の状況を踏まえて、リクルーターの活用やブランディングなどに積極的な投資をおこない、各地域における一般的な女性比率（エンジニアの場合、理工学専攻の女性比率）と同等以上の女性を採用
 - ・テクノロジーの活用とグローバル共通の人事制度により、日本以外からでも本社機能の役割を担える仕組みを構築
 - ・社内外の専門家やリーダーによるダイバーシティ&インクルージョン・トークといったイベントや、共通の特性や経験をもった従業員のネットワーク機会の創出、産休や育休の取得前後でのキャリア座談会などの実施
- 日本においては、諸外国と比較して、ジェンダーをはじめとする多様性の確保について多くの改善機会を有している中、女性管理職比率（2021年3月末時点：2.2%）を2026年までに5.0%にする目標を策定して取り組んでおります。

(4) 人的資本への投資 【補充原則 3-1③、4-2②】

「企業の成長は人。社員は価値創出の源泉」という考えのもと、当社の経営戦略を強力に推進するための人的資本への投資を経営陣で議論し、戦略的に実行しております。

■ 取組状況

- グローバル人材マネジメント
当社は18か国76拠点において事業を展開しており、多様な個性、スキル、経験、強みをもった人材がOne TELとしてグローバルで価値観を共有し、一丸となって価値創造に取り組むことが重要と考えています。2017年にグローバル共通のジョブ型人事制度（GTC: Global TEL Career-Paths）や人材マネジメントシステムを導入し、国を超えた人材活躍の共通プラットフォーム構築、グローバルでの人材育成、キャリアアップに注力してまいりました。事業環境の変化に対応し、機動的かつ最適なリソース配置が可能となっております。
- 基本理念や行動規範（TEL Values）等の実践
グローバル人材マネジメントの根幹は、創業時から大切にしてきた、当社の企業理念や価値観です。CEOを含む経営陣が率先して社員集会といった場を活用して社員との直接の対話の機会を設け、会社の目指す姿を伝えるとともに、入社時を含む階層別トレーニングにおいても、基本理念やTEL Values等の共有及び実践のためのプログラムをおこなっています。
- やる気重視経営
当社では、社員一人ひとりが自分の能力を最大限に発揮して、常に高い目標に向かってチャレンジすることを支援しています。このような取り組みが、社員エンゲージメントスコアの継続的改善に加え、製品競争力・顧客対応力の強化、生産性の向上につながっております。
グローバル共通の人事プラットフォームのもと、当社における職務やキャリア機会が全社員に公開されており、キャリア形成の自律化やキャリアパスの見える化につながっております。キャリア形成にあたっては、TEL UNIVERSITY（社内共通の教育プラットフォーム。社員が主体的にキャリアを形成し、自己実現することを支援）を通じた能力開発投資を積極的におこなっております。加えて、当社では会社の業績と個人の職責・貢献度に応じて大きく差をつけ、公正で競争力のあるグローバルレベルの処遇を実現しており、優秀な人材の獲得、維持に努めております。

(5) 知的財産への投資 【補充原則 3-1③、4-2②】

知的財産に関する当社の基本方針は、知的財産を保護し、事業活動をサポートすることにより、企業収益の向上に貢献することです。当社は、独自の進化が続く半導体業界において成長していくために、産学連携を含む研究開発をグローバルに展開しています。当社では本社に加え、世界各地の研究開発・生産拠点に知的財産担当者を配置し、研究開発やマーケティングの観点など、様々な角度からプロジェクトを検討し、技術・製品戦略に合わせた知的財産ポートフォリオを構築し、競争力の向上に努めています。

■ 取組状況

- 2020年3月期から3年間で約4,000億円の研究開発投資を発表し、その計画に沿って、遂行しております。今後も、利益に基づく強い財務基盤のもと、積極的な成長投資をおこないます。
- 国内開発拠点（6拠点）を主軸に、ワールドワイドの研究開発拠点（6拠点）と連携する他、外部のコンソーシアム、研究機関、アカデミアとのアライアンスも活用することで、研究開発力を強化し、顧客の価値創造に寄与する技術開発に継続的に取り組んでいます。
- 開発戦略の要である技術者に対しては、知的財産権への意識を高める教育を継続的に実施しており、累計約4,370名（2021年3月末時点）の技術者が発明者となっています。また、顧客や協業先の技術情報など機密性の高い情報を扱う機会も多いため、機密情報管理に関する教育にも注力しています。
- 当社の特許保有件数は18,692件（2021年3月末時点）であり、知的財産領域における優位性をグローバルレベルで維持しています。

(6) 企業年金基金のアセットオーナーとしての機能発揮 【原則 2-6】

当社の企業年金基金は、年金加入者・受給者等の受益権の保全を基本方針として定め、それを実践する関係者の役割と責任及び運営管理方法等について定めております。

■ 取組状況

- 年金資産の運用に関して責任をもつ資産運用委員会は、人事、経理、財務各部門より専門性をもった者で構成されており、加えて資産配分や運用機関選定に関しては外部専門家による評価やアドバイスを得ております。
- 年金資産の運用状況や議決権行使結果、スチュワードシップ活動については、運用機関から報告を受け、モニタリングしております。

第Ⅲ部 ガバナンスの体制

1. 当社の持続的成長につながるガバナンスの基本的な考え方

当社は、革新的な技術力と、多様なテクノロジーを融合する独創的な提案力で、半導体と FPD 産業に高い付加価値と利益を生み出す真のグローバルカンパニーというビジョンを掲げております。海外の売上比率が 80%を超える環境下において、グローバル競争に勝ちぬき、持続的成長を実現する真のグローバルカンパニーとなるためには、それを支えるガバナンス体制を構築することが重要であると考えております。

そのため、当社がもつワールドワイドのリソースを最大限活用するための仕組みを構築するとともに、多様な意見を取り入れ、経営基盤及び技術基盤を強化し、グローバル水準の収益力を確立することのできるガバナンス体制を整備します。

2. 持続的成長に向けた「攻めのガバナンス」実現のための体制 【原則 4-2、4-10】

当社は、現状、取締役会及び監査役会から構成される監査役会設置会社方式を採用しております。監査役会による経営の監督のもと、実効性のあるガバナンスを実現しております。

また、重要な業務執行の意思決定及び監督機能を有し、執行部による適切なリスクテイクを支える取締役会に加え、

- ・ 経営の公正性、実効性、透明性の確保を目的とする指名委員会、報酬委員会
- ・ 会社戦略の推進機関としての CSS (Corporate Senior Staff)
- ・ 執行部における審議機関としての業務執行会議

を設置するなど、当社の持続的成長に向けた攻めのガバナンス実現に資する体制を敷いております。

■ 取組状況

- 取締役会

執行部による適切なリスクテイクを支える取締役会は、当社グループの戦略的な方向付けをおこなうことを主要な役割と認識し、経営戦略や経営計画等について建設的な議論をおこない、中期経営計画等の進捗を監督する場として機能しております。また、取締役会から執行部に委譲した決裁権限事項について、執行部における意思決定が適切に機能しているか監督するため、業務執行会議における審議状況の報告・説明を求めています（詳細は下記 3.取締役会 参照）。なお、2021 年 3 月期においては、取締役会を 12 回開催いたしました。

- 指名委員会と報酬委員会

取締役会内に設置する指名委員会及び報酬委員会では、それぞれ CEO 及び取締役候補者の指名、役員報酬制度について、独立社外取締役からの適切な関与・助言のもと積極的な議論をおこないます。

両委員会の存在が、当社経営の公正性等を担保し、当社の健全な「攻めのガバナンス」を支えております。

指名委員会

目的：CEO 及び取締役候補者の指名を通じた取締役会構成の公正性・実効性の確保

役割：株主総会で選任される取締役候補及び取締役会で選任される CEO 候補を指名し取締役会に提案する。

構成：社内取締役 3 名、独立社外取締役 1 名の計 4 名（2022 年 3 月期）

開催回数：10 回（2021 年 3 月期）

報酬委員会

目的：報酬制度を通じた経営の透明性・公正性、報酬の妥当性の確保

役割：当社グループの取締役及び執行役員の報酬方針・報酬制度、代表取締役の個別報酬額等を取締役会に提案する。

構成：社内取締役 2 名、独立社外取締役 2 名の計 4 名（2022 年 3 月期）

開催回数：7 回（2021 年 3 月期）

- 業務執行会議

当社では、執行部における審議機関として業務執行会議を設置しております。

目的：取締役会付議事項について、執行側で十分に審議し取締役会で議論すべき論点を明確にする
とともに、執行部における決定事項について意思決定過程の合理性の確保を図る。

構成：業務執行取締役、社内監査役（オブザーバー）で構成し、議案に応じて執行役員等が出席する。

- CSS（Corporate Senior Staff）

当社がもつワールドワイドのリソースを最大限活用し、攻めのガバナンスを実現するための実効的な仕組みの一つとして、CSS（Corporate Senior Staff）を設置しております。

目的：グループ全体で経営戦略に対する共通認識を図るとともに、各担当領域の短期的視点に
捉われることなく、グローバルな横串の視点や中長期的経営の観点から、経営計画の進捗管理
や追加施策のレビューをおこなうことで、戦略遂行を効率的かつ強力に推し進める。

構成：執行役員及び海外現地法人などの経営幹部

- 責任限定契約及び役員等賠償責任保険契約

当社は、社外取締役及び各監査役との間において、会社法第 423 条第 1 項に定める賠償責任の限度額を、職務をおこなうにあたり善意でかつ重大な過失がないときは会社法第 425 条第 1 項に定める賠償責任限度額とする旨の責任限定契約を締結しております。

また、会社法第 430 条の 3 第 1 項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しております。当該保険契約では、取締役及び監査役を被保険者とし、被保険者が会社の役員等としておこなった業務及び不作為に起因した損害賠償金、和解金、争訟費用等が填補されます。

3. 取締役会

(1) 取締役会の役割・責務 【原則 4-1】

取締役会は、株主に対する受託者責任を踏まえ、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値向上に努めます。当社取締役会の役割・責務は次のとおりです。

① 経営戦略及びビジョンを示すこと

取締役会は基本理念、経営理念等の企業理念を定め、長期的な戦略ビジョンを提示し、中期経営計画、資本政策を定めることなどにより、グローバル競争に勝ちぬくための会社の目指すべき姿、戦略を確立します。

② 戦略的な方向性を踏まえた重要な業務執行の決定をおこなうこと 【補充原則 4-1①】

グローバルな競争に勝ちぬき、持続的成長を実現するためには、攻めのリスクテイクと、それを支えるリスクの管理が重要です。取締役会は、業務に精通した業務執行取締役に加え、独立社外取締役及び監査役の豊富な経験・知見からもたらされる多様な意見を取り入れながら、経営上特に重要な業務執行に関して意思決定をおこないます。特に重要な業務執行とは、当社グループの業績、財務状況、中長期の成長及び企業価値に大きな影響を与える事項などを指し、中期経営計画や株主還元方針の承認、組織再編及び M&A などがこれに該当します。

また、取締役会は、執行部における意思決定が適切に機能していることを監督するため、重要な決定事項に関する業務執行会議の審議状況の報告・説明を求めます。

取締役会及び業務執行会議において決定された戦略については、各部門の責任者となる執行役員が機動的に実行に移します。

③ 自由闊達で建設的な議論をおこなうこと

取締役会は、付議された事項について多様な意見を取り込むため、出席者の積極的な発言を求め、活発な議論に基づく経営・業務執行の監督に努めます。

社外取締役等からの意見も含め、少数意見、反対意見であってもこれを尊重し、必要に応じて実行条件や提案内容の見直しをおこない、全員が納得する形での意思決定を目指して、議論を尽くします。ただし、決断すべきことは機を逃さず、迅速に決断することを重視します。

■ 取組状況

- 取締役会付議事項に関する重要性の基準については、会社法の規定も踏まえ、当社を取り巻く環境に照らす等、常に見直しをおこなっております。取締役会において、経営上より重要性の高い案件に関する審議に時間を配分するために、2020年5月及び10月に取締役会規程の一部改訂を実施し、取締役会における付議基準の引き上げをおこないました。
- 当社取締役会においては、社内取締役のみならず独立社外取締役や監査役からも常に積極的に率直な意見が述べられており、活性化された取締役会の議論が実現できております。

(2) 取締役会全体としての知識・経験・能力のバランス、多様性及び規模に関する考え方

【補充原則 4-11①】

① 業務執行取締役の選定の方針 【原則 3-1(iv)及び(v)】

業務執行取締役の選定にあたり、経営者としての経験、見識、実績に裏付けられた優れた執行能力、あらゆるリスクに対して感度が高く、正しい分析と判断ができること、自己が正しいと信じる意見を率直に議場で発言することなどを当社の業務執行取締役に求めます。

また、当社取締役会においては、多様なバックグラウンド、知見からの建設的な議論をおこなうため、業務執行取締役に

- ・ 営業・サービス系
- ・ 製造工場系
- ・ 技術開発系
- ・ 管理部門系

など、社内の各部門に精通した取締役をでき得る範囲でバランスを考慮して選任します。

■ 取組状況

- 現在の業務執行取締役は、上記のバランスを充たす形で選定されております。
- 業務執行取締役は、各部門を代表しておこなう議案の付議及び説明にとどまらず、異なる視点から客観的、建設的な意見を述べることで、取締役会における活発な議論や適切な意思決定及び執行の監督に寄与しております。

② 独立社外取締役及び独立社外監査役の選定の方針 【原則 3-1(iv)及び(v)、4-7、4-8、4-9】

独立社外取締役及び独立社外監査役は、社内出身の取締役による同質の議論に偏ることのないよう、独立した立場から忌憚のない意見を述べることで、取締役会の議論をグローバル競争で勝ちぬくための適切な方向に導きます。

上述の観点から、独立社外取締役及び独立社外監査役は、

- ・ グローバルビジネスに関する知見
- ・ 関連業界に関する幅広い見識
- ・ 多彩な人的ネットワーク
- ・ 社会的な視点
- ・ 資本市場の視点等からの客観性
- ・ 財務・会計に関する知見
- ・ 法律全般に関する知見

等をバランスよく備えた人材構成とします。⁷

また、当社は社外役員に関して、会社法上の要件に加え、別途定める独立性判断基準のとおり⁸、独立社外取締役及び独立社外監査役の独立性を担保します。

今後も当社の持続的成長に資すると考えられる知見、人格を備えた人材を、独立社外取締役等として新たに迎え入れていくことについて、前向きに検討いたします。

■ 取組状況

- 現状は、監査役を含めた取締役会出席者の17名中、独立社外取締役は4名であり、独立社外監査役3名を含めた社外役員は7名であります。現在の取締役会では、事業に精通した業務執行取締役の視点と社外役員を含めた非執行側の視点が相まって、業務執行の決定及び監督に不可欠である適度な緊張と建設的な議論が実現されていると考えております。

⁷ 社外取締役及び監査役の詳細については「コーポレート・ガバナンスに関する報告書」4～8ページをご参照ください

⁸ 独立性判断基準の詳細については、別紙2「社外役員の独立性判断基準」をご参照ください。

③ 取締役会規模と多様性

質の高い活発な討議ができる規模であること、また、業務執行取締役及び独立社外取締役それぞれに期待する知識・経験・能力をバランスよく備え、ジェンダーや国際性などを含めた多様性が確保されることが重要であると考えております。こうした点に鑑み、定款上定める18名までの範囲内で、知識・経験・能力のバランスを考慮し、その時点の事業環境に応じた適切な規模人数とします。

今後とも取締役・監査役候補者に関しましては、当社が期待する知識・経験・能力を備えた、ジェンダーや国際性を含む多様な人材の選定に取り組んでまいります。

■ 取組状況

- 現在の取締役会は、女性の取締役2名、外国籍の取締役1名を含む取締役12名で構成されており、現況においてバランスの取れた人材構成をもたらす適正規模と考えております。
- 各取締役及び監査役のスキルを一覧化したスキルマトリックスを開示しております。⁹

(3) 取締役、CEOの指名 【原則3-1(iv)、補充原則4-3②、4-3③】

当社は経営の公正性、実効性確保の観点から、指名委員会を設置しております。指名委員会規程において、指名委員にはCEOは加わらないことを定めており、CEO及び取締役の選解任に関する提案権を、指名委員に委ねることとしております。

また、指名委員会は、毎年の委員会が同一規範に基づいた活動をおこなえるよう活動ガイドラインを制定しております。指名委員会活動ガイドラインにおいて、CEO及び取締役に求められる資質や適格性、CEOの選解任検討の起点となる事項を定めており、選解任手続の客観性・適時性・透明性の確保に努めます。

取締役に、

- ・短・中・長期の企業価値増大に貢献する資質・判断力
- ・取締役としてふさわしい能力・人格・品格・見識
- ・公明正大さ、人望、人徳
- ・グローバルカンパニーにふさわしい倫理観
- ・リスクに対する感度と理解力

といった資質や適格性が求められると考えております。

また、CEOには、上述の取締役に求められる資質や適格性に加え、グループ全体を牽引する実現力、実行力を備えた強いリーダーシップ、高度なマネジメント能力が求められると考えております。

なお、CEOの解任に関しては、これらの資質や適格性に疑義が生じた場合など、指名委員会活動ガイドラインに基づき、指名委員会が検討をおこないます。

① 指名委員会の役割

- (i) 指名委員会は、株主総会で選任される取締役候補者を指名し、取締役会に提案します。
- (ii) 指名委員会は、取締役会で選任される最高経営責任者（CEO）である代表取締役候補者を指名し、取締役会に提案します。
- (iii) 指名委員会は、取締役及び取締役候補者から、東京証券取引所が定める独立役員の要件を踏まえて策定した当社の独立性判断基準に照らし、独立役員候補者を取締役会に提案します。

② 指名委員会の独立性の確保 【補充原則4-10①】

指名委員会は、社外取締役もしくは社外監査役を含む3名以上の委員で構成することとしておりますが、その独立性を担保するため、CEOを指名委員に選任することはできないものとしております。また、指名委員の選任については、指名委員会が次期委員を推薦し、その推薦に基づき取締役会で決定しております。これらにより、指名委員会の運営には、CEOの権限が及ばず、独立性・公正性の高い候補者選定を実現します。

なお、指名委員の任期は1年であり、再任は原則4期までとしております。

⁹ 取締役及び監査役の個人別のスキルについては、別紙4「スキルマトリックス、取締役会の多様性の状況」をご参照ください。

■ 取組状況

- 指名候補者の提案手続き

・ CEO 候補者及び社内取締役候補者の提案

指名委員会は、社内から候補者を提案する場合、適任候補者群から独自に複数の指名候補を選抜し、適宜、候補者へのインタビューや社内外の関係者へのヒアリングなどの調査をおこないます。また、必要に応じて社外取締役との事前の意見交換をおこなうなど、慎重な検討を重ねた上で、上述の CEO・取締役求められる資質や適格性を有する人物を CEO 候補者もしくは取締役候補者として、取締役会に提案します。

・ 社外取締役候補者の提案

指名委員会は、社外から候補者を提案する場合、候補者群から当社取締役会に提供いただける知見、経歴及び上述の取締役に求められる資質や適格性を有する人物像の観点から適任者の検討をおこないます。最終的には、現任の社外取締役の意見も取り入れながら、社外取締役候補者を取締役に提案します。

候補者の選出にあたっては、指名委員のみならず、社外取締役、社外監査役を含む取締役会メンバー、それぞれがもつ人的ネットワークを活用して、これをおこないます。

・ 監査役候補者の提案

監査役候補者の指名は、指名委員会の指名対象としておりません。監査役候補者の選出にあたっては、監査役会または執行部が選出した候補者の中から、当社に提供いただける知見、経歴及び上述の人物像の観点を踏まえ、監査役会が適任者の検討をおこないます。最終的には、監査役会における同意を経た上で、監査役候補者を取締役に提案します。

(4) 最高経営責任者等の後継者の育成に向けたプランニング 【補充原則 4-1③】

当社は、TEL サクセッションプランに基づき、次世代経営人材の候補者群を形成し、CEO による監督のもと、グループ経営にかかわるミッション等を通じて、後継候補者の育成に努めます。指名委員会が後継候補者の能力とレディネス（準備状況）を分析・精査し、取締役会は、指名委員会からの報告に基づき討議をおこない、後継候補者育成プランの進捗を適切に監督します。

なお、CEO は後継候補者となりうる階層の人材育成を進めるものの、後継候補者群から具体的な候補者指名に進む段階においては、その過程に関与しない方針です。

■ 取組状況

- CEO 及び代表取締役は、日々の業務執行を通して、後継者候補の能力、人格・品格・見識を多面的に評価しつつ、配置転換、研修等の機会を設けること等により、候補者の研鑽を常にサポートします。また、将来有望な人材のプールとして、CSS（Corporate Senior Staff）や社内の選抜リーダー研修等を活用しております。

- 候補者には、グループ経営にかかわる重要課題など、知見・経験の蓄積につながるミッションを与え、そのパフォーマンスをトップマネジメント レビュー・ミーティング¹⁰で確認することで、後継者候補の能力とレディネスを確認しております。

(5) CEO を含む執行部に対する公正な評価 【補充原則 4-3①】

CEO をはじめとする業務執行取締役に対する公正かつ透明性の高い評価がおこなわれるよう、当社は以下の取り組みをおこないます。

① CEO に対する評価

・ CEO の業績連動報酬に関しては、報酬委員会の提案に基づいた算定式が取締役会で決定されており、高い透明性のもとで公正に決定します。

・ CEO の指名にあたっては、担務の業績評価も含めた経年のパフォーマンスに基づき、また、人格・品格を含む経営者としての資質を考慮の上、その職責を担うことができるかという観点で、対象者の適正性を指名委員会によって評価します。

指名委員会は CEO の適格性、求める資質等の選任に至る要件、解任についての検討の起点、要件についてまとめた指名委員会活動ガイドラインを策定し、取締役会に報告、共有しております。これにより、CEO の選解任にかかるプロセスの客観性、透明性向上に努めます。

¹⁰ トップマネジメント レビュー・ミーティング：代表取締役、指名委員、人事担当執行役員等が出席し、育成計画の策定や後継者候補人材の選抜を担う。

② 業務執行取締役に対する評価

- ・業務執行取締役は、予算や中期経営計画に基づく担当部門の業績達成に責任を負うことから、業績連動報酬にかかる人事評価においては、その達成度を重要な評価要素とします。
- ・業務執行取締役の年次業績連動報酬額は、取締役会の決議に基づき、株主総会で決議された賞与額の範囲内で、各取締役の職責とパフォーマンス評価に応じて CEO が最終決定します。また、各取締役の評価や報酬額の決定にあたっては、外部専門家からの助言を参照した上で報酬委員会においても妥当性の検証を実施します。

(6) 取締役、CEO の報酬 【原則 3-1(iii)、補充原則 4-2①、4-10①】

① 報酬方針

当社グループの役員報酬の基本方針として重視する点は次のとおりです。

- (i) グローバルに優秀な経営人材を確保できるための競争力のある水準と制度
- (ii) 短期的業績及び持続的な成長に向けた中長期の企業価値向上との高い連動性
- (iii) 報酬決定プロセスの透明性・公正性、報酬の妥当性の確保

② 報酬構成

取締役のうち社内取締役の報酬は、下表のとおり「固定基本報酬」「年次業績連動報酬」「中期業績連動報酬」により構成します。

社外取締役につきましては、経営の監督に加えて、中長期的な企業価値向上の視点から経営に対して助言をおこなうという役割を担っております。この期待役割に対しより整合した報酬体系とすることを目的に、非業績連動の株式報酬制度を導入しており、社外取締役の報酬は「固定基本報酬」「非業績連動報酬（株式報酬）」で構成されます。

なお、固定報酬的色彩の強い取締役に対する役員退職慰労金制度につきましては、2006年3月期以降分を廃止しております。

| 区分 | 固定基本報酬 | 年次業績連動報酬 | | 中期業績連動報酬 | 非業績連動報酬 |
|-------|--------|----------|--------------------|----------------------|----------------------------------|
| | | 現金賞与 | 株式報酬型 ストックオプション | パフォーマンスシェア (株式報酬) | リストラクテッド・ ストック・ユニット (株式報酬) |
| 社内取締役 | ○ | ○ | ○ | ○ | — |
| 社外取締役 | ○ | — | — | — | ○ |

③ 報酬等の種類別の方針及び決定方法

(i) 固定基本報酬

取締役の固定基本報酬につきましては、株主総会で決議された固定基本報酬限度額の範囲内で決定します。代表取締役の報酬額は、報酬委員会の提案に基づき取締役会で協議・決定し、代表取締役を除く取締役の報酬額は、取締役会の決議に基づき CEO が最終決定しております。取締役の報酬額の決定にあたっては、外部調査機関が提供する業界の国内外企業の報酬水準を参照し、外部専門家からの助言も得た上で、業務執行取締役については職務等級フレームワークに基づく職責の大きさに応じて決定しております。また、外部専門家からの助言を参照した上で報酬委員会においても妥当性の検証を実施しております。

(ii) 年次業績連動報酬

《構成・固定基本報酬に対する支給割合に関する方針》

年次業績連動報酬は、取締役のうち社内取締役のみを対象としており、当年度の業績に連動して支給しております。原則、現金賞与と株式報酬型ストックオプションで構成し、その構成割合は概ね 1 対 1 としております。また、株式報酬型ストックオプションにつきましては、権利付与から 3 年間の権利行使制限期間を設定し、中長期にわたり株主目線の共有及び企業価値増大への意識を高める仕組みとしております。

なお、年次業績連動報酬は事業年度ごとの業績に応じた利益配分型の報酬となっており、固定基本報酬に対する支給割合に関する方針は設定しておりません。

《算定指標・当該指標を選択した理由》

代表取締役を含む取締役の会社業績に対するインセンティブとして、利益の状況を示す指標の中から親会社株主に帰属する当期純利益の実績値を算定指標として採用しております。また、資本効率を示す指標である連結 ROE の当期実績値を算定式に組み込んでおります。

《算定方法・決定方法》

・代表取締役

代表取締役の年次業績連動報酬額については、親会社株主に帰属する当期純利益と連結 ROE を業績評価指標とする算定式に基づき、代表取締役個人のパフォーマンス評価(短期並びに中期経営戦略に基づく目標)を反映した案を外部専門家からの助言も踏まえて報酬委員会において審議し、報酬委員会が取締役会に提案します。取締役会は当該提案を検討した上で最終的な報酬額を決定しております。

<報酬額決定にかかる報酬委員会の役割>

| ミッション(評価項目)の設定 | パフォーマンス評価 | 報酬額の決定 |
|--|-------------------------------------|--------------------------------|
| 報酬委員会による審議及び代表取締役を除く取締役会メンバーによる審議を経て設定 | 報酬委員会による審議を経て、代表取締役を除く取締役会メンバーにより評価 | 報酬委員会が支給額を取締役会に提案し、取締役会決議により決定 |

・取締役（代表取締役及び社外取締役を除く）

親会社株主に帰属する当期純利益と連結 ROE に連動する各取締役の年次業績連動報酬額の決定については、取締役会の決議に基づき、株主総会で決議された賞与額の範囲内で CEO が最終決定しております。最終決定するにあたっては、外部調査機関が提供する業界の国内外企業の報酬水準を参照した上で、各取締役の職責とパフォーマンス評価(短期並びに中期経営戦略に基づく目標)に応じて決定しております。また、各取締役の評価や報酬額の決定にあたっては、外部専門家からの助言を参照した上で報酬委員会においても妥当性の検証を実施しております。

(iii) 中期業績連動報酬

《構成・固定基本報酬に対する支給割合に関する方針》

中期業績連動報酬は、取締役のうち社内取締役のみを対象としており、中期の業績向上への意識を高めること、及び株式保有を通して株主目線を共有し、企業価値増大への意識を高めること等を目的にパフォーマンスシェア(株式報酬)を支給します。各社内取締役に対して交付される当社株式の数は、職責及び3カ年の対象期間における業績目標達成度に応じた支給率により変動いたします。

中期業績連動報酬の支給率が100%の場合、支給額は職責に応じて固定基本報酬の30%~100%程度に設定しております。

《算定指標・当該指標を選択した理由》

中期業績連動報酬につきましては、当社の中期経営計画と連動する形で、収益力を測る指標として連結営業利益率を採用し、また、資本効率を示す指標として連結 ROE を採用しております。

《算定方法・決定方法》

(中期業績連動報酬算定式)

$$\begin{aligned} \text{株式交付ポイント} = & \left[\text{基準ポイント(職責の大きさに応じて設定)} \times 70\% \times \text{連結営業利益率連動係数(※)} \right] \\ & + \\ & \left[\text{基準ポイント(職責の大きさに応じて設定)} \times 30\% \times \text{連結 ROE 連動係数(※)} \right] \end{aligned}$$

(※)対象期間(3事業年度)の業績目標の達成度を評価する指標は、連結営業利益率・連結 ROE それぞれ対象期間における最終事業年度の実績値とします。各連動係数は、業績目標の達成度に応じて支給率 0%・50%・75%・100%・120%の5段階とします。

社内取締役に対して交付される当社株式の数は、上記算定式に従って算出される株式交付ポイント数に応じ、1ポイントにつき1株とします。ただし、当社株式について分割、無償割当または併合等があった場合は、1ポイント当たりに交付される株式数を調整します。

なお、算定式また算定式に用いる基準ポイント及び業績連動係数については報酬委員会の提案に基づき取締役会が決定します。

(iv) 非業績連動報酬

非業績連動報酬は、社外取締役を対象としております。当社の社外取締役は、経営の監督に加えて、中長期的な企業価値向上の視点から経営に対して助言をおこなうという役割を担っており、この期待役割に対しより整合した報酬体系とすることを目的に非業績連動の株式報酬制度(リストラクテッド・ストック・ユニット)を導入しております。支給額につきましては、現金報酬と株式報酬を適切なバランスで支給するべく、標準額を固定基本報酬の50~60%程度に設定しており、権利付与から3年後に株式を交付します。

社外取締役に対して交付される当社株式の数は、支給額をもとに算出される株式交付ポイント数に応じ、1ポイントにつき1株とします。ただし、当社株式について分割、無償割当または併合等があった場合は、交付される株式数を調整します。

④ 株式保有ガイドライン

当社は、株式保有ガイドライン(2021年7月1日発効)を定め、経営陣が持続的な企業価値の向上とステークホルダーとの利益の共有をより確かなものとし、本ガイドラインの発効後または就任後5年以内に、以下の価値に相当する当社株式を保有することを目標としております。

| CEO | 社内取締役 | 社外取締役 | 当社執行役員 |
|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 固定基本報酬(年額)の3倍 | 固定基本報酬(年額)の2倍 | 固定基本報酬(年額)の1倍 | 固定基本報酬(年額)の1倍 |

⑤ クローバックポリシー

当社は、クローバックポリシー(2021年7月1日発効)を定め、業務執行取締役の故意の不正行為を主因として、財務数値の重大な修正が必要となると認められる場合に、年次業績連動報酬及び中期業績連動報酬の返還を要求するものとします。返還の対象となり得る報酬は、該当行為が認められた事業年度及びその前の3事業年度において受け取った業績連動報酬のうち過大な部分です。

⑥ 報酬委員会の役割

当社は、経営の透明性・公正性、報酬の妥当性を確保するため、社外取締役を含む3名以上の委員(代表取締役を除く)で構成される報酬委員会を設置しております。報酬委員会の開催にあたっては外部専門家が毎回同席し、この外部専門家からの助言を活用し、国内外の同業企業等との報酬水準等の比較や、国内外における最新動向、ベストプラクティス(ESGの報酬への反映など)の分析をおこなった上で、取締役の報酬方針、グローバルに競争力があり当社グループに最も適切な報酬制度及び代表取締役の個別報酬額等について取締役会に対し提案をおこないます。

(7) 取締役会の議論の活性化に向けた取り組み等 【原則4-8、4-12、4-13、補充原則4-12①】

当社取締役会は十分な審議時間を確保しております。取締役会の事務局機能を法務部が担い、以下のような運営をおこなうことで、円滑な会議運営と審議の活性化を図ります。

また、業務執行会議において、取締役会付議事項について執行部で十分に審議し、取締役会で議論すべき論点を明確化することにより、取締役会では成長戦略や企業価値向上に向けた議論に注力します。

さらに、取締役会の場合とは別に、オフサイトミーティングを開催し、経営戦略・ビジョンにかかる中長期的にも重要なテーマについて重点的に討議をおこないます。

■ 取組状況

- 会議運営の取組

- 年間の取締役会開催スケジュールを決定することで、適切な審議時間を確保するとともに、社外役員を含めた役員全員の出席率の向上に努めております。
- 取締役会開催日に先立って、取締役会出席者に審議事項に関する資料を事前配布します。また、社外取締役及び社外監査役に対して事務局より適宜事前説明をおこなっております。社外取締役及び社外監査役の業務の遂行に必要な情報については、当社法務部から適時に伝達するなどサポート体制の窓口を一本化しております。特に重要な事項については、事前に、当社執行部との間で意見交換をおこなう場を設けるなど、十分な情報提供及び意見交換に努めております。

(8) 取締役のトレーニング 【原則 4-14、補充原則 4-14①、4-14②】

取締役・監査役に対しては、必要に応じてさらなる知識の習得や、適切な研鑽のための機会を提供します。また、新任の社外取締役、社外監査役の就任の際には、当社の事業、事業環境、財務状況、組織等について適切に説明をおこないます。

(9) 取締役会の実効性評価 【補充原則 4-11③】

当社取締役会においては、監査役が取締役の職務の執行状況に関する監査結果を報告します。それに加えて、各取締役及び各監査役が記入する評価アンケートに基づき、取締役会の実効性に関する討議をおこない、取締役会自らの分析・評価としてまとめ、毎年、その結果の概要を開示します。分析・評価の結果認識した課題については、取締役会における議論を踏まえ、適宜改善に向け取り組みます。

■ 取組状況

- 2021年3月期における当社取締役会の実効性評価にあたっては、評価項目の設定にかかるアドバイス、ヒアリングの実施・集計・分析については第三者機関を起用し、その集計結果・分析内容を参照しつつ、社外取締役及び社外監査役を主たるメンバーとする意見交換、討議を実施いたしました。その上で、取締役会全体でそれらを共有・討議し、当社の指名委員会・報酬委員会を含む取締役会の実効性に関する審議と包括的な評価を実施いたしました。その結果の概要を当社ウェブサイト¹¹にて開示しております。

4. 監査役会 【原則 4-4、補充原則 3-2②】

(1) 監査役会構成

当社監査役会は、当社の事業・経営体制に精通した常勤監査役と法律、財務・会計、資本市場などの専門分野に精通した社外監査役を置くこととしております。各監査役は、監査役会で決定した監査方針、監査計画等に従い、監査役監査活動をおこない、取締役の職務執行や会社財産の状況等を監査し、経営の健全性の監督を実施しております。

■ 取組状況

- 当社監査役会は、常勤監査役2名及び社外監査役3名で構成されております（2022年3月期）。

(2) 監査役の報酬

監査役の報酬は、経営の監査・監督が主たる役割であることを踏まえ、「固定基本報酬」のみとしており、株主総会で決議された固定基本報酬限度額の範囲内で監査役の協議に基づき支給額を決定しております。

(3) 監査役と執行部、内部監査部門、会計監査人との連携 【補充原則 4-13③、3-2②】

監査役は、執行部、内部監査部門、会計監査人と緊密な連携を保ち、組織的・実効的・効率的な監査を実施できるよう態勢の整備に努めます。

■ 取組状況

- 執行部との連携につきましては、代表取締役との定期会合を実施しております。また、経営会議や業務執行会議等の重要な会議に出席し、執行部と適宜意見交換をおこなっております。
- 内部監査部門との連携につきましては、常勤監査役が中心となり、監査センターの報告会等（年6回）を通じ、連携を図っております。
- 会計監査人との連携につきましては、社外監査役を含む監査役全員は、会計監査人から当期の監査計画を受領し、監査の方法の概要及び監査重点項目等について説明を受け、四半期・期末決算時に会計監査人からそれぞれレビュー及び監査結果に関する報告を受けております。外部会計監査人が不正を発見し適切な対応を求めた場合や、不備・問題点を指摘した場合は、必要により担当執行役員及び監査役に対して報告するとともに、担当執行役員が中心となって、調査・是正をおこない、その結果報告をおこなう体制としております。

¹¹ 取締役会の実効性評価についての詳細はこちら <https://www.tel.co.jp/about/cg/>

(4) 監査役監査の実効性 【原則 4-11】

当社は常勤監査役2名を置くことにより、実査を通じた情報収集をおこないます。また、内部監査部門、会計監査人との連携を適切に図り、監査役監査に必要な情報は不足なく入手されるよう体制整備をおこないます。

加えて、当社の常勤監査役の主要な子会社の監査役兼務を通じて、監査の有効性を高めるとともに、当社監査役全員、子会社監査役、内部監査部門長及びリスク管理部門長等を参加者とするグループ監査役連絡会を開催し、情報共有と意見交換をおこなうなど、グループ監査体制の整備に取り組みます。

■ 取組状況

- 2021年3月期において、監査役会を9回開催いたしました。
- 現状、監査役は、財務・会計の知識、法的知見、他社での監査経験など、業務監査・会計監査に求められる知見をバランスよく備えた構成となっており、当社グループの監査役監査において有効に機能していると考えております。
- 監査役監査は、事業年度ごとに設定される監査方針及び監査計画に基づいて実施されており、取締役会や業務執行会議のほか重要な会議に出席し意見を述べるとともに、業務監査、会計監査等を実施しております。

5. 内部統制及びリスク管理（内部統制基本方針）

【原則 2-5、4-3、4-13、補充原則 2-5①、4-3④、4-13③】

当社グループの企業価値向上のために、またすべてのステークホルダーに対して責任ある行動をとるために、実効性のある内部統制の強化に取り組みます。

当社は内部統制担当執行役員を任命し、取締役会で定めた「内部統制基本方針」に基づく実践的活動をおこなうとともに、金融商品取引法に基づく「財務報告に係る内部統制」への対応を実施します。また、リスク管理、コンプライアンスに関しましては、担当執行役員の指揮のもと、リスク管理、コンプライアンス活動を推進します。これらの活動状況については、担当執行役員が定期的に取り締役に報告します。

■ 取組状況

- 当社では、業務の適正を確保するための体制は以下のとおりであり、実行性と実効性の向上に努めております。
 - ① コンプライアンス体制
 - (i) 「東京エレクトロングループ倫理基準」及び「コンプライアンス規程」に基づき、コンプライアンスの重要性について周知・徹底を図っております。なお、「東京エレクトロングループ倫理基準」につきましては、行動規範としての位置づけを明確化するために、2020年5月に改訂し、より強固な企業倫理・コンプライアンス体制の構築に取り組んでおります。
 - (ii) コンプライアンス関連教育につきましては、テーマに応じて階層別、または全員必修としており、企業倫理・コンプライアンス、贈収賄防止、競争法、下請法、輸出コンプライアンス、インサイダー取引防止、個人情報保護、ハラスメント防止等のテーマを取り挙げております。
 - (iii) 当社グループでは、グループ全体及びグループ各社のコンプライアンス体制強化を目的として、海外主要拠点におけるコンプライアンス責任者を選任し、当社グループのコンプライアンス部門を統括するチーフ・コンプライアンス・オフィサーに対し職制上直接報告する体制を整備し、コンプライアンスに関する問題の防止・把握・対応のための施策を推進しております。
 - (iv) 法令や企業倫理上疑義のある事項の早期発見・早期対応に資するため、運用上の重要ポイントである守秘性及び匿名性の確保と報復禁止等の措置を講じた国内・海外統一の内部通報制度を導入しております。
 - ② リスク管理体制
 - (i) 「リスク管理規程」及び「クライシスマネジメント規程」を制定し、当社グループを取り巻くリスクの評価・分析をおこなっております。当社グループを取り巻く重要なリスク項目を定期的にレビューし、重要なリスクについては必要な施策を推進するとともに、リスク管理活動の状況を定期的に取り締役会及び監査役に報告し、リスク低減に努めております。また、2021年3月期においては、各事業本部長やグループ会社社長等も参画するリスクマネジメント委員会を新たに設置し、各リスク領域におけるリスクオーナー主導のもと、リスク項目を抽出し継続的にモニタリングを実施するなど、リスクマネジメント活動に取り組んでおります。
 - (ii) 当社グループでは、地震等のリスクに対応した事業継続計画を策定しており、各拠点における早期復旧、代替生産等に向けた対策の見直しに継続的に取り組んでおります。

- (iii) 新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延への対応につきましては、当社グループでは、CEOを本部長とする緊急対策本部を中心に、感染リスクの高い国や地域への渡航制限、サプライチェーンの維持、事業所における感染予防策の徹底等の対策を引き続き講じております。

③ 内部監査部門

- (i) 内部監査部門は、業務監査及び金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制評価の機能をもつ監査センター（14名）を社長直轄組織として設置し、監査機能の拡充を図っております。
- (ii) 業務監査について監査センターは、当社内部監査規程に基づき年次監査実施計画を立案し、当社グループの国内・海外拠点に対して監査を実施しており、監査結果等の報告については、経営層に対する報告会で実施するとともに、当社常勤監査役及び国内子会社監査役に対しても同様の報告会で実施しております。また、取締役会に対しても報告をおこなう体制を構築しております。
- (iii) 内部監査部門と会計監査人との間においても、定期的もしくは随時、情報交換・意見交換がおこなわれる体制とし、効率的・効果的な監査となるよう連携しております。

④ グループ会社の経営管理

- (i) グループ会社の重要な意思決定につきましては、当社「取締役会規程」及び「決裁基準に関する規程」に基づき、当社の承認を得ることとしております。
- (ii) 「関係会社管理規程」を改訂し、当社の承認を必要とする事項に加え、当社への報告事項についても明確化を図り、グループ会社管理の強化に取り組んでおります。

⑤ 取締役の職務執行

- (i) 取締役会は、グループ経営の重要事項を決定するとともに、代表取締役、業務執行取締役及び執行役員を選任し、所管業務の執行をおこなわせております。
- (ii) 取締役会は、CEOを含む業務執行取締役の業務執行状況や業務執行会議の審議状況について、定期的に取締役会において報告を受け、当社グループ全体の業務執行状況を監督しております。
- (iii) 当社の持続的な成長と中長期的な企業価値向上に向けた取締役会の運営見直しにも取り組んでおり、2021年3月期においては、「取締役会規程」の一部改訂を実施しました。

⑥ 監査役の監査体制

- (i) 監査役は、取締役会のほか、経営会議、業務執行会議、倫理委員会等の重要会議にも適宜出席し、内部統制の整備、運用状況を確認しております。
- (ii) 監査役は、会計監査人及び国内子会社監査役と適宜会合をもち、情報交換及び連携をおこなっております。また、当社監査役及び国内子会社監査役は内部監査部門（監査センター）から定期的に報告を受けております。

6. 会計監査人との関係 【原則3-2、補充原則3-2①、3-2②】

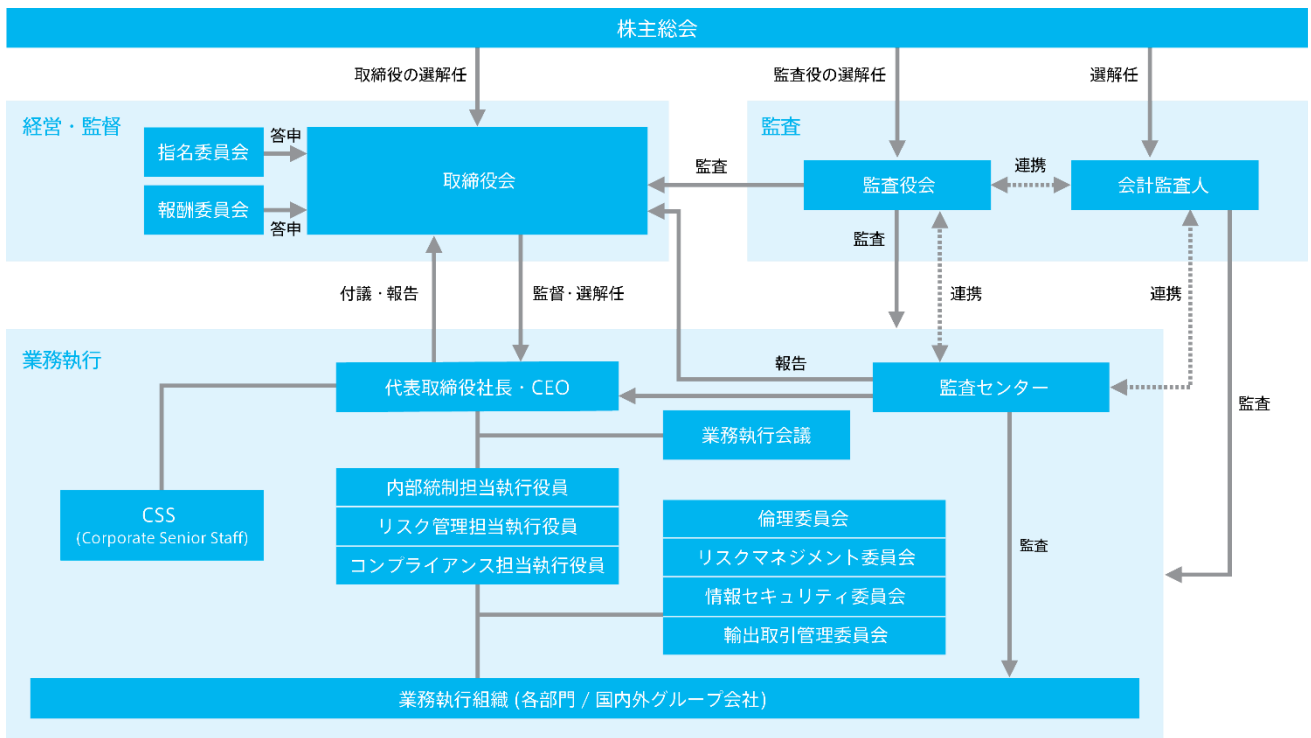
当社は、会計監査人の適正な監査の確保に向けて、十分な監査時間を確保するとともに、代表取締役と担当執行役員と会計監査人との間で定期的な会合を実施します。

また、当社監査役会は別途定めている「監査役会が会計監査人を評価及び選定する際の基準」に従い、会計監査人からの説明を受けるほか、当社経理部に対し、会計監査人の監査の実施状況等に関する意見聴取の実施等により、会計監査人の評価をおこないます。評価にあたっては、会計監査人の品質管理の適切性や、独立性・専門性、監査の有効性・効率性、並びに監査役、経営者や内部監査部門等とのコミュニケーションの有効性などを確認します。

■ 取組状況

- 金融商品取引法に基づく会計監査につきましては、2005年3月期以降、会計監査人である有限責任 あずさ監査法人と監査契約を締結しており、期中監査に際して当社からあらゆる情報、データを提供し、迅速かつ正確な監査が実施しやすい環境を整備しております。

別紙 1 コーポレート・ガバナンス体制の模式図



社外役員の独立性判断基準

当社取締役会は、当社における社外役員(会社法第2条第15号に規定される社外取締役及び同法同条第16号に規定される社外監査役)の独立性判断基準を下記のとおり定める。

記

当社は、以下に該当する社外役員で、一般株主と利益相反が生じるおそれがあると認められる者は独立性がないものと判断する。

- (1) 当社を主要な取引先とする者もしくはその業務執行者(業務執行取締役、執行役、執行役員その他の使用人を指す。以下同じ)または当社の主要な取引先もしくはその業務執行者
ただし、下記(2)に該当する者を除く

※ 本項目において「当社を主要な取引先とする者」とは、過去3年の各事業年度(過去の事業年度の数値を当社が合理的に把握できない場合は、把握できた事業年度。以下同じ)にわたってその者の年間連結売上高(これに準ずるものを含む。以下同じ)の5%または1億円のいずれか高い方の額以上の支払いを当社及び当社子会社から受けた者をいう。

※ 「当社の主要な取引先」とは、過去3年の各事業年度にわたって当社の年間連結売上高の2%相当額以上の支払いを当社におこなった者をいう(当社が借入れをしている金融機関については、当社の資金調達において必要不可欠であり代替性がない程度に依存している金融機関に限る)。

- (2) 当社及び当社子会社から役員報酬以外に多額の金銭その他の財産を得ているコンサルタント、会計専門家または法律専門家(当該財産を得ている者が法人、組合、事務所等の団体である場合は、当該団体に常勤として所属している者をいう。以下同じ)

※ 「多額の金銭その他の財産を得ている」とは、過去3年の各事業年度にわたってその者の年間売上高(当該財産を得ている者が法人、組合、事務所等の団体である場合は当該団体の年間連結売上高)の5%または1千万円のいずれか高い方の額以上の金銭または財産を得ていることをいう(以下同じ)。

- (3) 最近において、上記(1)または(2)のいずれかに該当していた者

※ 「最近において、上記(1)または(2)のいずれかに該当していた者」とは、実質的に、現在、上記(1)または(2)に該当している者と同視できるような場合をいい、当該独立役員を社外取締役または社外監査役として選任する株主総会の議案の内容が当社取締役会で決定された時点において、上記(1)または(2)に該当していた者をいう。

- (4) 次の(ア)から(エ)までのいずれかに掲げる者(重要でない者を除く)の近親者
ただし、(ウ)は社外監査役の独立性を判断する場合にのみ適用する
(ア) 下記(i)から(iii)までに掲げる者

(i) 当社を主要な取引先とする者もしくはその業務執行者または当社の主要な取引先もしくはその業務執行者
ただし、下記(ii)に該当する者を除く

※ 本項目において「当社を主要な取引先とする者」とは、過去3年の各事業年度にわたってその者の年間連結売上高の5%または1億円のいずれか高い方の額以上の支払いを当社から受けた者をいう。

※ 「当社の主要な取引先」とは、過去3年の各事業年度にわたって当社の年間連結売上高の2%相当額以上の支払いを当社におこなった者をいう(当社が借入れをしている金融機関については、当社の

資金調達において必要不可欠であり代替性がない程度に依存している金融機関に限る)。

(ii)当社から役員報酬以外に多額の金銭その他の財産を得ているコンサルタント、会計専門家または法律専門家

(iii)最近において、上記(i)または(ii)のいずれかに該当していた者

※ 「最近において、上記(i)または(ii)のいずれかに該当していた者」とは、実質的に、現在、上記(i)または(ii)に該当している者と同視できるような場合をいい、当該独立役員を社外取締役または社外監査役として選任する株主総会の議案の内容が当社取締役会で決定された時点において、上記(i)または(ii)に該当していた者をいう。

(イ)当社の子会社の業務執行者

(ウ)当社の子会社の業務執行者でない取締役

(エ)最近において(イ)、(ウ)または当社の業務執行者(社外監査役の独立性判断にあたっては、業務執行者でない取締役を含む)に該当していた者

※ 「重要でない者」に該当するか否かについては、会社法施行規則第74条第4項第7号ホ等に準じて判断され、具体的には、上記(1)、(4)(ア)(i)の業務執行者については各会社・取引先の役員・部長クラスの者、上記(2)の所属する者については各監査法人に所属する公認会計士、各法律事務所に所属する弁護士(いわゆるアソシエイトを含む)が、「重要な者」に該当するものとする。

※ 「近親者」とは、二親等内の親族をいう。なお、親族関係が解消されている場合は、近親者としては取り扱わない。

以上

別紙3 CEO・取締役・監査役の個別選任理由及び他の上場会社との兼職の状況

【原則3-1(v)、補充原則4-11②】

| | |
|------------------------------|--|
| <p>取締役会長 常石 哲男</p> | <p>当社の半導体製造装置事業のほか、IR や法務、事業戦略など幅広い分野でマネジメントに携わり、豊富な経験及び実績を有しております。これらの長年の経験を活かし、株主価値向上に向けた意思決定に貢献する人材であると判断したため、取締役として選任しております。</p> <p>(他の上場会社との兼職の状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京エレクトロンデバイス(株) 取締役 |
| <p>代表取締役社長・CEO 河合 利樹</p> | <p>当社で半導体製造装置の販売をグローバルに展開し、同事業の複数のビジネスユニットでマネジメントに携わり、豊富な経験及び実績を有しております。また CEO として経営の執行において強いリーダーシップを発揮しております。これらの経験及び実績を当社取締役会でのグループ経営の方針決定等において活かすことが期待されるため、取締役・CEO として選任しております。</p> |
| <p>代表取締役 佐々木 貞夫</p> | <p>当社及び当社グループ製造会社において、半導体製造装置のマーケティング業務や技術開発、装置開発等のマネジメントに携わり、豊富な経験及び実績を有しております。これらの経験及び実績を活かし、取締役会の意思決定機能を強化することが期待されるため、取締役として選任しております。</p> |
| <p>取締役 布川 好一</p> | <p>当社の営業部門、財務、人事など、幅広い分野の業務に携わり、当社グループ会社の管理部門を統轄する執行役員を務めたほか、当社の常勤監査役として、当社経営の意思決定の健全性・適正性の確保に貢献するなど、豊富な経験を有しております。これらの経験及び実績を活かし、取締役会の意思決定機能を強化することが期待されるため、取締役として選任しております。</p> |
| <p>取締役 長久保 達也</p> | <p>当社管理部門での業務に携わり、海外駐在等を通じて会社のグローバル展開を推進するなど、豊富な経験及び実績を有しております。これらの経験及び実績を活かし、取締役会の意思決定機能を強化することが期待されるため、取締役として選任しております。</p> |
| <p>取締役 春原 清</p> | <p>半導体製造装置の営業をグローバルに展開し、またフィールド・サービス事業を統括し同事業の拡大に貢献するなど、豊富な経験及び実績を有しております。これらの経験及び実績を活かし、取締役会の意思決定機能を強化することが期待されるため、取締役として選任しております。</p> |
| <p>取締役 池田 世崇</p> | <p>当社の半導体製造装置事業において複数のビジネスユニットのマネジメントに携わったほか、アカウントセールス本部長として利益及びシェアの向上、顧客との関係強化に尽力するなど、豊富な業務経験及び実績を有しております。これらの経験及び実績を活かし、取締役会の意思決定機能を強化することが期待されるため、取締役として選任しております。</p> |
| <p>取締役 三田野 好伸</p> | <p>当社の半導体製造装置事業において、主力のビジネスユニットで営業、マーケティング業務、及びそのマネジメントに長年携わり、同部門における事業成長に大きく貢献するなど、豊富な経験及び実績を有しております。これらの経験及び実績を活かし、取締役会の意思決定機能を強化することが期待されるため、取締役として選任しております。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>独立社外取締役 チャールズ・ デイトマース・ レイク二世</p> | <p>米国政府の要職や米国の法律事務所勤務等を経て、アフラック生命保険(株)代表取締役会長及びアフラック・インターナショナル・インコーポレーテッド取締役社長等を歴任しており、日本と米国の両国にまたがる企業の経営者としての豊富な経験及び見識を有しております。これらの経験及び見識を活かし、経営の監督に加え、中長期的な企業価値向上の観点から当社の経営全般に対して意見・助言をいただくことが期待できることから、社外取締役として選任しております。</p> <p>(他の上場会社との兼職の状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アフラック生命保険(株) 代表取締役会長 (注2) ・アフラック・インターナショナル・インコーポレーテッド 取締役社長 (注2) ・日本郵政(株) 社外取締役 |
| <p>独立社外取締役 佐々木 道夫</p> | <p>(株)キーエンスの代表取締役社長等を歴任し、企業価値の飛躍的な向上や高い利益率を実現するなど、長年にわたり同社のグローバルマネジメントに携わった経験を有しております。これら企業経営者としての豊富な経験及び見識を活かし、経営の監督に加え、中長期的な企業価値向上の観点から当社の経営全般に対して意見・助言をいただくことが期待できることから、社外取締役として選任しております。</p> <p>(他の上場会社との兼職の状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)SHIFT 取締役副社長 ・(株)瑞光 社外取締役 |
| <p>独立社外取締役 江田 麻季子</p> | <p>米国大手半導体メーカーIntel Corporation において、アジア太平洋地域のマーケティングに携わり、半導体の事業の将来やニーズの拡がりについて深い知見を有するとともに、同社日本法人の代表取締役社長を務め、企業経営者としての豊富な経験及び幅広い見識を有しております。また、世界経済フォーラム日本代表を務め、様々な分野のリーダーと幅広く意見交換をおこない、国際社会が直面する諸課題の解決に取り組んでおります。これら半導体産業にかかる経験、グローバルで多面的な視点を活かし、経営の監督に加え、中長期的な企業価値向上の観点から当社の経営全般に対して意見・助言をいただくことが期待できることから、社外取締役として選任しております。</p> <p>(他の上場会社との兼職の状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界経済フォーラム日本代表 (注3) ・富士フイルムホールディングス(株) 社外取締役 |
| <p>独立社外取締役 市川 佐知子</p> | <p>田辺総合法律事務所のパートナーを務め、企業法務を中心に弁護士として豊富な経験及び専門知識を有するとともに、米国ニューヨーク州弁護士資格や米国公認会計士資格を保有するなど、グローバルかつ高度な専門性も兼ね備えております。これらの経験や、コーポレートガバナンス、リスクマネジメント、コンプライアンス等の見識を活かし、経営の監督に加え、中長期的な企業価値向上の観点から当社の経営全般に対して意見・助言をいただくことが期待できることから、社外取締役として選任しております。</p> <p>(他の上場会社との兼職の状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンパス(株) 社外取締役 |

| | |
|--------------------------|--|
| <p>常勤監査役 原田 芳輝</p> | <p>執行役員として当社グループの管理部門を統轄するなど、業務やマネジメントの経験が豊富であり、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。当社監査役に就任してからは、監査役会の議長役を務め、的確な提言をおこなうなど、監査役会全体としての監査の実効性向上に貢献してきました。これらの経験及び専門知識を活かすことで監査役としての職務を適切に遂行できると判断し、監査役として選任しております。</p> |
| <p>常勤監査役 田原 計志</p> | <p>当社グループにおける技術開発、生産部門において執行役員等の要職を歴任し、技術、マネジメントに関する経験、知識が豊富であり、監査役として経営全般並びに当社グループにおける技術分野での実効性の高い監査が期待できるため、監査役として選任しております。</p> |
| <p>独立社外監査役 和貝 享介</p> | <p>公認会計士として監査法人での長年の経験があり、豊富な財務及び会計に関する専門知識と監査等の見識を当社の監査に反映いただいております。当社取締役会や監査役会においては、情報セキュリティ等に関する意見・助言をいただくなど、当社の監査に貢献していただいております。引き続きこれらの経験及び見識を活かし、監査の妥当性を客観的に確保する観点から、社外監査役として選任しております。</p> <p>(他の上場会社との兼職の状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持田製薬(株) 社外監査役 |
| <p>独立社外監査役 濱 正孝</p> | <p>金融機関における長年の幅広い経験を通じて、企業経営に関する豊富な経験を有するとともに、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。これらの経験及び見識を活かし、監査の妥当性を客観的に確保する観点から、社外監査役として選任しております。</p> |
| <p>独立社外監査役 三浦 亮太</p> | <p>大手法律事務所でのパートナーを経た後、現在は弁護士法人三浦法律事務所のパートナーを務めるなど、企業法務分野を中心に弁護士として豊富な経験及び専門知識を有しております。これらの経験及び専門知識を活かし、監査の妥当性を客観的に確保する観点から、社外監査役として選任しております。</p> <p>(他の上場会社との兼職の状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テクマトリックス(株) 社外取締役(監査等委員) ・エーザイ(株) 社外取締役 |

(注 1) (株)東京証券取引所の定める独立性基準を踏まえて策定した当社の「社外役員の独立性判断基準」を満たしていることから、当社は、取締役 チャールズ・ディトマース・レイク二世氏、佐々木道夫氏、江田麻季子氏及び市川佐知子氏並びに監査役 和貝享介氏、濱正孝氏及び三浦亮太氏を、独立役員として指定し同取引所に届け出ております。

(注 2) アフラック生命保険(株)及びアフラック・インターナショナル・インコーポレーテッドは、非上場会社であります。取締役 チャールズ・ディトマース・レイク二世氏が、それぞれ、代表取締役会長及び取締役社長を務めているため、記載しております。

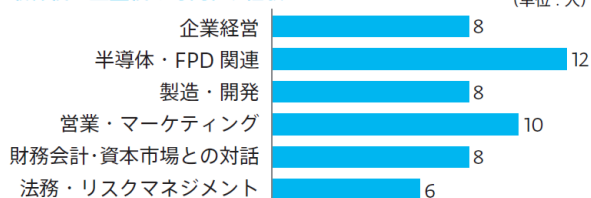
(注 3) 世界経済フォーラムは上場会社ではありませんが、取締役 江田麻季子氏が日本代表を務めているため、記載しております。

別紙 4 スキルマトリックス、取締役会の多様性の状況

【原則 4-11、補充原則 4-11①】

| | 氏名 | 専門性、経験 | | | | | |
|-----|---|--------|-----------|-------|------------|---------------|--------------|
| | | 企業経営 | 半導体・FPD関連 | 製造・開発 | 営業・マーケティング | 財務会計・資本市場との対話 | 法務・リスクマネジメント |
| 取締役 | 常石 哲男 | ● | ● | | ● | ● | |
| | 河合 利樹 | ● | ● | ● | ● | | |
| | 佐々木 貞夫 | ● | ● | ● | ● | | |
| | 布川 好一 | | ● | ● | ● | ● | |
| | 長久保 達也 | | ● | | | ● | ● |
| | 春原 清 | | ● | ● | ● | | |
| | 池田 世崇 | | ● | ● | ● | | |
| | 三田野 好伸 | | ● | ● | ● | | |
| | チャールズ・デイトマース・レイク二世 社外 | ● | ● | | | ● | ● |
| | 佐々木 道夫 社外 | ● | | ● | ● | | |
| | 江田 麻季子 社外 | ● | ● | | ● | | |
| | 市川 佐知子 社外 | | | | | ● | ● |
| 監査役 | 原田 芳輝 | | ● | | | ● | ● |
| | 田原 計志 | ● | ● | ● | ● | | |
| | 和貝 享介 社外 | | | | | ● | ● |
| | 濱 正孝 社外 | ● | | | | ● | |
| | 三浦 亮太 社外 | | | | | | ● |

取締役・監査役の専門性、経験



取締役の独立性、多様性



(注)「専門性、経験」の6つの項目の定義は以下のとおりです。

- ・企業経営：企業経営の経験を有していること（代表取締役、会長・社長経験者）
- ・半導体・FPD 関連：半導体・FPD 関係業界に関する知見を有していること
- ・製造・開発：当社及び他の製造業における製造・開発に関する知見・経験を有していること
- ・営業・マーケティング：当社及び他の製造業における営業・マーケティングに関する知見・経験を有していること
- ・財務会計・資本市場との対話：財務会計、M & Aに関する知見、または、資本市場との対話についての知見・経験を有していること
- ・法務・リスクマネジメント：法務、コンプライアンス、リスクマネジメントに関する知見を有していること